

Nestlé in society



Good Food, Good Life

「共通価値の創造」と
2012年私たちの
責務と履行



2012年パフォーマンス概要

ネスレは、「共通価値の創造」、サステナビリティおよびコンプライアンスの評価と報告を重視するパフォーマンス指標を開発しました。この要約版は国連グローバル・コンパクトの原則に基づいた進捗状況に関する年次報告書の一部となります。特に注記のない限り、パフォーマンス指標は2012年12月31日を最終日とした2012年のものです。グローバル・レポート・イニシアチブ(GRI)コラムの参考文献はGRIの G3.1ガイドラインの当該の指標に対応しています。

www.nestle.com/csv/2012/kpisを参照してください。

「社会とネスレ、「共通価値の創造」に関する主要パフォーマンス指標	GRI	2011年	2012年
経営指標			
グループ総売上高(百万スイスフラン)	EC1	83642	92186
純利益(百万スイスフラン)	EC1	9487	10611
栄養			
ネスレ ニュートリション事業の売上高(百万スイスフラン)	FP4	7233	7858
「ネスレ栄養基盤」の基準以上の製品(総売上に占める割合) ^(a)	FP4	74.1	75.7
栄養または健康面に配慮して改良された製品数 ^(b)	FP7	5066	6692
栄養価値の高い原材料または必須栄養素を強化した製品数 ^(b)	FP7	3851	4691
ナトリウム、糖類、トランス脂肪酸、総脂質、カロリーまたは合成着色料を削減した製品数 ^(c)	FP6	1215	3317
製品試験プログラム「60/40+(シックスティ・フォーティ・プラス)」で分析・改善または確認された製品(売上高、百万スイスフラン) ^(d)	PR1	28715	31720
「ブランド・アクティブ・ベネフィット(BAB、ネスレが認めた健康価値ブランド)」を取り入れた製品(売上高、百万スイスフラン)	FP7	5563	6455
「ネスレ ニュートリショナルコンパス(栄養情報・製品情報)」の表示製品(世界総売上に占める割合) ^(e)	PR3	98	96.8
パッケージ前面に1日のカロリーガイド表示(GDA)を示したEUの製品(売上に占める割合) ^(e)	PR3	98.9	99.3
ポーションガイド(1食分がわかる工夫や情報を行っている)製品(売上高、100万スイスフラン) ^(f)	PR3	21894	26190
手の届く価格帯の製品群(PPP)の品目数	FP4	5556	6367
手の届く価格帯の製品群(売上、百万スイスフラン)	FP4	10610	11960
農業・地域開発と責任ある調達			
能力開発プログラムによる研修を受けた農業従事者数		200751	273808
「ネスレ 持続可能な農業イニシアチブ(SAIN)」プログラムの対象市場数		46	46
SAINプログラムによって直接調達が実施されているマーケットの割合(%)		100	100
ネスレの調達方針を順守しているサプライヤー、主要取引先、優良主要サプライヤーの割合	FP1	96	89.5
「ネスレサプライヤー規約」に準じて調達された取引先の割合	FP1	75.2	80
水資源			
総取水量(百万m ³)	EN8	143	138
総取水量(製品1トンあたりm ³)	EN8	3.17	2.89
環境サステナビリティ			
生産量			
総生産量(百万トン)		45.2	47.7
原料			
原料使用量(百万トン)	EN1	22.9	22.5
包装に使用する原料(百万トン)	EN1	4.58	4.77
包装原料の削減量(達成削減量千トン)		39.3	47.1
エネルギー			
総エネルギー消費量(ペタジュール)		90.1	90.7
総エネルギー消費量(製品1トンあたりのギガジュール)		1.99	1.90
再生可能エネルギー使用割合(総量に占める割合) ^(g)	EN3	11.6	12.2
直接エネルギー消費量(ペタジュール)	EN3	64.3	63.7
再生可能エネルギー使用割合(総量に占める割合) ^(h)	EN3		9.3
間接エネルギー消費量(ペタジュール)	EN4	70.1	73.5
生物多様性			
自然保護地域にある製造施設の合計規模(ヘクタール) ⁽ⁱ⁾	EN11	44.2	42.1

【社会とネスレ、「共通価値の創造」】に関する主要パフォーマンス指標

GRI 2011年 2012年

排出、排水、廃棄

温室効果ガス直接排出量(百万トンCO ₂ eq) ^(a)	EN16	3.81	3.71
温室効果ガス直接排出量(製品1トンあたりkg CO ₂ eq) ^(a)	EN16	84.2	77.7
温室効果ガス間接排出量(百万トンCO ₂) ^(a)	EN16	3.23	3.39
温室効果ガス間接排出量(製品1トンあたりkg CO ₂) ^(a)	EN16	71.5	71.1
総排水量(百万m ³)	EN21	94	84
総排水量(製品1トンあたりm ³)	EN21	2.08	1.77
排水の水質(平均COD値 mg/L)	EN21	69	94
副産物量(製品1トンあたりkg)	EN22	31.32	29.9
廃棄物量(製品1トンあたりkg)	EN22	7.6	6.6

環境サステナビリティの管理

ISO 14001認定の製造施設(製造施設全体に占める割合%)		90	89
---------------------------------	--	----	----

人権とコンプライアンス

責任あるマーケティング方針に準拠した12歳未満の子ども向けネスレテレビ広告の割合(%)(^(k))	PR7	99.1	98
乳児用調製粉乳マーケティング方針におけるネスレの要修正回数 ^(l)	PR7	19	22
WHO規約に準拠した教育を受けた、高リスク国の乳児用調製粉乳マーケティングスタッフ(全スタッフに占める割合%)(^(m))	PR6	100	100
重大な製品リコールまたはコンプライアンス違反の総数	PR2	10	11

私たちの人材

従業員数(⁽ⁿ⁾)	LA1	327537	339397
会社全体での新規採用者率(%)(^(o))	LA2	12.01	11.8
会社全体での離職率(%)(^(o))		10.8	10.3
「ビジネスインテグリティ」(事業活動の統治)と人事関連で確認されたコンプライアンス違反件数		57	45
内訳:軽度		49	40
中度		8	5
重度		0	0
社員・請負契約者の休業を伴う負傷・疾患率(百万労働時間あたり)	LA7	1.8	1.9
報告対象になる社員・請負契約者の総負傷・疾患率(百万労働時間あたり)	LA7	3.8	3.6
社員・請負契約者の死亡件数	LA7	18	5
事業部門ごとの年間平均研修時間 ^(p)	LA10	2.02	10
管理職に占める女性の割合(%)(^(o))	LA13	28	29.2
途上国の現地法人経営陣に占める現地出身者の割合(%)(⁽ⁿ⁾)	EC7	53	49.5

- (a) 2012年の評価範囲:ネスレの総売上高の73.5%
- (b) 世界の製品開発チームの約75%の報告に基づく。製品によってはある成分を「減らす」と同時に他の成分を「増やす」場合もある。
- (c) このKPIは当社の「60/40+」プログラムが活発に実施されていることをよく反映している。評価結果は、すべての条件に変化がなければ、最長3年間有効とした。
- (d) ペットケア事業、および米国に限っては、ドライヤーズとそのライセンスブランド、ハーゲンダッツとカリフォルニア・ビザキッチンを除く。
- (e) EU27か国にノルウェー、スイス、アドリア海地域、ウクライナ、モルドバを加えた地域。(ミルクや砂糖の入らない)コーヒー、紅茶、水、ネスレプロフェッショナル(業務用)の製品、ギフト用チョコレート、調味料、ペットケア、ネスレヘルスサイエンスとネスレニュートリションを除く。
- (f) 1サービング単位販売の製品、もしくは、機器や装置を使用して販売される1食/1杯分が「ネスレ栄養基盤」に合致もしくはそれ以上とみなされる製品。もしくは栄養面でのニーズに応じて1サービング分を調整する詳細な指示がある製品。現状では、これはポーションガイダンス(摂取量の指針)に従ったポートフォリオの一部である。
- (g) 正式には「再生可能エネルギー使用割合」と呼ばれる。この指標は分かりやすく名称が変更された。
- (h) 新KPI 直接エネルギーの使用量に限定した再生可能部分に基づく%(例えば工場ですべてのエネルギーを燃焼)。
- (i) 自然保護地域にある工場のリストから工場が1カ所削減されることになる工場統合の調整。従って地域の工場数は2011年より減少。
- (j) 更新後の排出因子を用いた新しい報告システムの適用が直接排出報告に与える影響はほとんどないが、絶対的・相対的間接排出量は2011年から(各々)+1.2%および+1.4%増加した。パフォーマンスのその他の変化はネスレの活動によるものである。
- (k) この割合は、2011年9月に再定義された子どもの視聴者が35%以上という厳しい基準にするネスレの通年のコンプライアンス割合を示している。
- (l) 内部および外部監査に基づく。高リスクおよび低リスク国を区別するために2010年7月に基準の変更をして以降、WHO規約の実行に関するネスレの方針と指示が最低条件として適用される「高リスク」カテゴリーの国が増加。
- (m) 「高リスク」国とは5歳未満の死亡率が1000人中11人以上、もしくは5歳未満の急性栄養失調(中程度もしくは深刻な消耗)率が2%超の国。それ以外の国は「低リスク」とした。
- (n) 合併事業を含むネスレの全社員が対象
- (o) 人事システムに登録されたネスレの社員が対象(全社員の約80%)
- (p) 研修システム手集計 各マーケットからの提出資料より合算(全社員の約80%に適用)

2012年の主な成果

75.7%

「ネスレ栄養基盤」の基準に合致した製品の割合

540万人

64カ国で行われた「ネスレ ヘルシーキッズ グローバルプログラム」に参加した子どもたちの数

6692

栄養または健康面に配慮して改良された製品数

11700

マギー製品が直近8年間で削減した塩の量(トン)

1000億

世界全体で販売されているヨウ素強化マギー製品のサービング数

690054

ネスレと直接契約している農家の数

44000

3780万米ドルに上るネスレの金銭的支援を利用した農業従事者の数

489

ネスレの工場での節水プロジェクトの件数、650万m³の節水

217

南アジア地域での清潔な飲料水提供プロジェクトの件数、10万人以上の学童が水や衛生設備を利用可能。

39

廃棄物量ゼロの工場の数

- 24%

2002年以降の直接GHG(温室効果ガス)排出量の削減率

18103

ネスレの人権に関するオンライン研修ツールを修了した社員の数

目次

会長・CEOからのメッセージ	2	日本での取り組み	N-1
栄養に関する取り組み	4	東日本大震災被災地への継続的な支援	N-3
専門家の意見	6	社会に対する価値創造	N-4
ネスレと栄養に関する10のグローバルな課題	10	栄養	N-6
要約:2012年の「共通価値の創造」、サステナビリティおよびコンプライアンス	32	水資源環境の保全	N-11
ネスレの責務と履行	44	ネスレの人材	N-14
		社会貢献・ボランティア活動	N-16

社会とネスレ

「社会とネスレ、『共通価値の創造』と2012年私たちの責務と履行」報告書では、「共通価値の創造」(CSV: Creating Shared Value)の3つの注力分野のひとつ、栄養に焦点を置きます。また、2012年の「水資源」および「農業・地域開発」におけるCSV活動、ならびに環境サステナビリティとコンプライアンスの分野の進捗状況についても最新の情報を提供します。さらに、「栄養」、「水資源」、「農業・地域開発」、「サステナビリティ」および「コンプライアンス」の分野におけるネスレの具体的な取り組みも紹介します。44～48ページにこれらの一覧を示します。

報告書を通して、詳細なオンライン情報へのリンクが提示されています。

「株主と社会の双方に対して中核的事業を通して価値を創出するという企業の社会的責任を全うすることで、私たちは社会に大きく貢献できると信じています。ネスレでは、「栄養」、「水資源」、「農業・地域開発」の分野を優先して共通価値を創造します。これには長期的な考え方が必要です…」

会長 ピーター・ブラベック-レッツマット

「『共通価値の創造』は、法律、行動規範、およびネスレの経営に関する諸原則について最高レベルのコンプライアンスを達成し、未来の世代のために環境を保護するという社会に対する基本方針の上に成り立っています。」

CEO ポール・ブルケ

社会ピラミッドにおけるネスレ



会長・CEOからのメッセージ

私たちがサービスを提供し事業を行う地域が繁栄し、健康な人々、健全な経済、そして健全な企業業績が長期にわたって相互に好影響を与え合うことができ、はじめてネスレの繁栄につながると日々考えています。社会において、私たちは機会を利用するだけでなく、国内法、国際基準および「ネスレの経営に関する諸原則」を順守し、未来の世代のために環境保護を行い、事業展開する責任を負う立場にあることを認識しています。このようにサステナビリティとコンプライアンスに関する私たちの取り組みは常識に基づいたものであり、「共通価値の創造」においてその活動の基盤を構築するものです。また、ネスレは企業サステナビリティ・リーダーシップの新しい体制のひとつ、国連グローバル・コンパクト LEAD の提唱メンバーとして国連グローバル・コンパクトをサポートしています。

【共通価値の創造】

私たちは、栄養、水資源、農業・地域開発の分野でグローバルな問題や地域の問題に具体的に対処し、事業展開することで、株主や社会に対して価値を創造できると確信しています。これが私たちの提唱する「共通価値の創造 (CSV)」です。私たちは中核的事業を関連する社会的問題と結び付ける機会を積極的に模索しています。

この報告書を「社会とネスレ、『共通価値の創造』と2012年私たちの責務と履行」と名付けたのはこのためです。今年、特に「栄養」に焦点を置きますが、人権を含めたコンプライアンス、CSV での他の優先分野（水資源および農業・地域開発）ならびに環境サステナビリティに対する私たちの取り組みについても説明します。

報告の範囲は、グローバルな問題への対応において私たちがその責任を果たし、参画していくという決意を反映した意欲的なものとなっています。



ネスレ会長のピーター・ブラベック・レッツマツはネスレ・インスティテュート・オブ・ヘルスサイエンス (NIHS) の落成式に参加するため、2012年11月にNIHSを訪問しました。



ネスレのCEOポール・ブルケは、グアテマラシティでネスレが後援するNutrimovilプログラムを訪問。本プログラムは低所得層向けに無料で栄養に関する助言をします。

栄養に関する取り組み

ネスレは、おいしく健康的な食品や飲料を提供することで消費者のクオリティ・オブ・ライフを向上させることを最優先しています。その結果、私たちは世界的な水資源の危機と密接に関係する食品や栄養摂取のリスクが増していることを実感し

ています。

逼迫する他の多くの地球規模の問題と同様、水資源と栄養問題に協力して取り組むことが重要です。そうしなければ、先進国か途上国かに関わらず、そう遠くない未来に食料や新鮮で清潔な水がますます不足し、その価格も高額になってしまうでしょう。

食料・水資源の 危機はどれくらい 差し迫った問題 なのでしょう？

その答えを示す事実があります。

- 現在、世界には栄養不良の人々が9億2500万人います（FAO：国際連合食糧農業機関）。
- 世界人口の約3分の1に相当する20億人が鉄、ヨウ素、ビタミンA、亜鉛のいずれか、または2種以上の欠乏症に陥っています。例えば、WHO(世界保健機関)の試算では、7億4000万人以上がヨウ素欠乏症、就学前の児童2億5000万人がビタミンA欠乏症に苦しんでいます。
- 2010年の就学前の児童の過体重または肥満の割合は、1990年から60%増加して世界全体で約4300万人でしたが、そのうち80%が途上国に居住しています（American Journal of Clinical Nutrition、2010年11月）。
- 現在、31カ国が水不足などの水に関する問題に直面しています。取水量が再生量を上回っていることから、2025年までにこの数は48カ国に増加すると予想されています（国連環境プログラム）。2100年までに世界の人口が100億人に達することでこうした問題はさらに逼迫すると思われる。

世界をリードする栄養・健康・ウェルネス企業として、私たちは食料・水資源の危機対応を支援するまたとない機会を与えられています。特に、地域レベルで消費者が直面している栄養過剰や栄養不良（微量栄養素欠乏症を含む）といった栄養問題における機会です。栄養問題による「二重負担」とすでに厳しい状況にある医療制度にのしかかる栄養関連の問題は、私たち全員にとって早急に対処すべき課題です。本報告書の第一部を「栄養」に当てたのはそのためです。

私たちは栄養に関する以下の5つの主要な課題に関連して2012年の対策を設定しました。

- 世界の栄養問題に取り組む科学技術の発達のために、
- すべての子どもたちが人生最良のスタートを切るために、
- 家庭の栄養ニーズに応えるために、
- 新興国の栄養面ニーズに応えるために、
- 高齢者・特定の栄養素を必要とする方々の栄養面ニーズに応えるために。

「栄養に関する取り組み」のセクションでは、例えば、微量栄養素の強化や健康との関わりから社会的に関心の高い成分（食塩、糖類、飽和脂肪酸およびトランス脂肪酸など）の体系的な削減、ならびに成分、摂取量および栄養ニーズに対してより良い助言をするなど、これらの各分野への取り

組みを説明します。また、「ネスレヘルシーキッズプログラム」など、世界的に展開されている栄養教育プログラムへの関与、ネスレ・インスティテュート・オブ・ヘルサイエンスで行われている遺伝子研究からグローバル研究開発ネットワークを通して私たちが行っているバイオフィューチャーセッションや行動学研究まで、私たちのすべての取り組みにおいて研究開発部門が果たす重要な役割についても説明します。

改めて強調したいのは、世界が直面している栄養問題は、散発的な個々のプロジェクトではなく、共同で組織的に取り組む必要があるということです。ネスレはこうした共同での取り組みにおいて有意義なリーダーシップを発揮できるでしょう。私たちはその能力だけでなく、もっと大切な決意も持ち合わせています。

会長
ピーター・ブラベックレッツマット

水資源、農業・地域開発、その他

本報告書の第2部では、水資源、農業・地域開発、環境サステナビリティ、コンプライアンスおよび人権に関して簡単に説明します。2012年の「共通価値の創造」、サステナビリティ、人権およびコンプライアンスに関する目標達成に向けた進捗が示されています。

私たちの責務と履行

「栄養に関する取り組み」で取り上げた重要な栄養問題のいくつかを改善するための私たちの決意を本報告書末尾の表にまとめました。また、農業・地域開発、水資源、サステナビリティ、人権およびコンプライアンスに対する今後の方針も示しています。

見解の共有

ネスレのウェブサイト www.nestle.com の「社会とネスレ」『共通価値の創造』セクションに掲載の広範かつ詳細なオンライン報告書と併せ、この冊子報告書では2012年の進捗状況と課題を述べています。

「社会とネスレ」の情報が皆さまにとって興味深く有益であることを願っています。また、www.nestle.com の「お問い合わせ」ボタンより皆さまからの情報・ご意見が寄せられることを心よりお待ち申し上げます。

CEO
ポール・ブルケ



ナイジェリアの自由市場で販売されている鉄、ヨウ素強化マギーブイオンは微量栄養素欠乏症の改善に役立っています。

栄養に関する取り組み

栄養は人間の生活の基本です。社会的、経済的および文化的分野においても、人間が成しうることは食料や水を手に入れるかどうかによって直接影響されます。

現在、数十億人が深刻な栄養不良に直面しています。十分な水や食料を確保できない人もいれば、食べ過ぎでほとんど運動しない人もいます。多くの国やコミュニティで両方の問題が蔓延しています。栄養不良の人がいる一方で栄養過剰な人が存在し、カロリーは取り過ぎているのに栄養状態が悪い人もいます。

こうした栄養問題の「二重負担」は非常に複雑な世界的問題です。

世界をリードする栄養・健康・ウェルネス企業として、私たちには栄養過剰（肥満およびそれに伴う非伝染性疾患）と特に微量栄養素欠乏症などの栄養不良の改善への対応に貢献する能力があります。

成人がこうした状態や疾患に陥らないようにするには、生涯を通じたアプローチが必要との共通見解が示されています。（10ページを参照）。ネスレの研究活動、栄養補助食品、プログラムおよびサービスを通

じて、「初めの1000日」（母親の妊娠期から子どもが2歳の誕生日を迎えるまで）に始まり、子どもが健康的な食生活と身体活動をおくれるよう推進し、生涯を通してより良い栄養摂取を継続することで健康的な老後を送れるように、私たちは栄養習慣の向上に貢献しています。

私たちには、栄養価の高い食品・飲料（医療用栄養製品など）から菓子やアイスクリームのカテゴリーに至るまで、消費者においしくて健康的な製品を提供する責任があります。ネスレは慢性疾患と微量栄養素欠乏症の両方に対し、対処法ではなく、積極的に予防的なアプローチを先頭に立って行っています。

私たちはそうすることをネスレの責任と考えていますが、これらの問題の規模が一企業、政府またはNGOの手に余るものであることも認識しています。

「共通価値の創造」はネスレがその事業活動を通じ、ステークホルダーとともに、母親、乳幼児からシニアまでお客様のすべてのライフステージにおける栄養面やライフスタイルに前向きな変化を起こす機会をもたらしてくれるのです。

専門家の意見：栄養問題の「二重負担」に対する理解

世界的な問題である栄養不良と肥満は、特にそれらが同時に存在する低中所得国で大きな問題となっており、WHO(世界保健機関)は栄養に関わる問題の「二重負担」と呼んでいます。

ロバート E. ブラック、B. セシケラン

栄養不良の問題は世界的に軽んじられています。栄養摂取の転換期を迎えている国であっても、低中所得国では、今でも栄養不良の母親や子どもが疾病率、死亡率および人的資本に悪影響を与えていることに加え、成人後の慢性疾患との関連においても重大な懸念となっています。

短期的には、紛争、干ばつ、自然災害が人々の栄養摂取に重大な影響を与えます。長期的な傾向としては、気候変動、水不足、農地の減少などにより、世界人口が100億人と予想される西暦2100年には世界人口への食料供給能力が脅かされる可能性があります。同時に、過体重と肥満が世界中で増加しています。こうした増加には都市化や活動量の少ないライフスタイル、精製された炭水化物や動物性食品の摂取量増加などさまざまな要因が関わっています。

低栄養

1990年から1992年頃には飢餓に苦しむ人々の数は世界で8億2,400万人ほどでした。2007年には9億2,300万人まで増加、飢餓に苦しむ人々や過少体重の子どもたちの数を半減するという国連ミレニアム開発目標が全く達成されていないことを示唆しています。医学雑誌「ランセット」に掲載された論文(2008年)において、ブラックらは世界全体の過少体重の幼児の数を1億1,240万人と試算しました。その割合はアフリカで28%、アジアで70%、南アジアで90%です。

低栄養は貧困に関係していると考えられていますが、経済成長が低栄養の比率を改善する保証はありません。急激な経済

成長を遂げている国の一部では、社会的な格差を反映して低栄養が解消されず、悪化する場合があります。経済成長によって栄養状態が良くなると思うかもしれませんが、トリクルダウン効果には時間がかかります。ブラジルでは、マクロ経済政策により経済が成長、貧困が減少し、子どもの過少体重や発育不良が急速に改善されています。これに反してインドは経済成長の恩恵が低栄養に影響を与えるには至っていません。世界中の栄養不良の子どもたちの40%と低出産体重児の35%がインドに集中しています。

多くの国が経済的貧困の改善を目指していますが、過少体重の子どもたちの数を半減するというミレニアム開発目標を達成できそうな国はほとんどありません。食料や原油価格の上昇、水の利用性の低下ならびに気候変動などの世界的な動向により、低栄養や微量栄養素欠乏症への対応が世界的に鈍化しています。

食料価格の高騰は世帯の購買力を大きく低下させます。食品の入手の大半を市場に頼っている最貧困層の人々は特に影響を受けています。購買力の低下は、暖房、照明、水、衛生設備、教育、医療などの世帯購入能力にも影響します。これらはすべて栄養摂取に関わりがあります。

燃料価格の高騰により、窒素肥料や輸送費用が増加し、食品価格の上昇につながります。また、バイオ燃料用の作物生産によって人間や動物が消費する食料の生産量が制限され、食料価格が上昇しています。食料価格の上昇による悪影響は、経済の低迷によって深刻化する可能性があります。途上国への資金援助の減少、就労機会の減少、および賃金低下により所得が減少し、購買力が低下、貧困の深刻化と貧困の割合が加速し、低栄養が増加することが考えられます。

科学者の大半が、気候変動が人類の直

面する最大の問題であると口を揃えています。気候変動に関する政府間パネルは、気候変動だけで飢餓のリスクを直接受ける人の数が4,000万~1億7,000万人増加し、それに伴う社会経済的リスクの影響を受ける人はさらに多くなると試算しています。気候変動は、疾患のパターンや死亡率の変化、異常気象の増加、農業や水利用に対する脅威など、さまざまな方面で健康と栄養に影響すると考えられます。

気温が2℃上昇すると、農業生産高の減少により2億2,000万人が栄養不良のリスクにさらされ、3℃上昇するとさらに4億4,000万人が栄養不良のリスクにさらされると考えられます。

食糧の確保と経済的発展を強化するための農業推進と人々の栄養状態の向上推進について、理論と実践の面でどう調整していくかが議論されています。こうした調整について改めて考える上で特に重要なものが、低中所得国における母親と子どもの栄養ニーズへの対応です。食糧確保におけるG8の主なイニシアチブは農産物の生産性の向上ですが、保健機関や提携機関は、栄養改善拡充のための取り組みなどにおいて、「初めの1000日」(妊娠期を通してさらに生後2年まで)の栄養摂取に注目しています。食糧確保を強化するという目標と併せ、特に貧困層における栄養確保を実現する必要があります。

「急激な経済成長を遂げながらも低栄養が解消されず、悪化している国があります。」



左 ロバート E.ブラック、MD、MPH、ジョンズ・ホプキンス大学・ブルームバーグ・スクール・オブ・パブリックヘルス
(米国メリーランド州バルティモア) 国際医療学部エドガー・バーマン教授兼学部長
右 B.セシケラン、MD、国立栄養研究所 (ICMR) (インド、ハイデラバード) 前理事長

過体重と肥満

1人当たりのGNP(国民総生産)が低い国を含め、母親と子どもの低栄養が蔓延している国で過体重と肥満が問題になっているという事実があります。世界銀行の戦略(栄養を発展の核と位置づける)では、先進国の3倍の速さで過体重の子どもの割合が増加しているアフリカ諸国を中心に、5歳未満の子どもの過体重が多くの発展途上国で懸念要因と位置づけられています。2010年には、過体重や肥満の子どもの数が4,300万人で、その80%

が低中所得国の子どもたちであると試算されました。世界的には1990年の4.2%に対し、2020年までに9.1%に達すると予測されます。



コートジボワールで大規模に行われた調理と衛生に関する教育イベント、マギーの「Caravane des étoiles(星のキャラバン)」

多くの国で過体重の人がいる一方、食糧が確保されず低栄養に陥っている人がいるという不公平な状態が生じています。一方で、女性の過体重と肥満の割合が高い場合、その子どもに栄養不良が多いという状況も見受けられます。

南アジアの栄養不良

人口増加と都市化の影響が甚大で経済が成長しても低栄養がほとんど解消されない南アジアでは、栄養不良が特に切迫した問題となっています。南アジアでは、おびただしい数の子どもたちが、教育レベルの低さ、不適切な食事、低健康状態、低認知力と直接関係する貧困の悪循環に陥っています。都市部の貧しい移住者も食糧を確保できず、都市部において深刻な栄養不良に陥る人の数が増加しています。

特に食生活の変化によって摂取エネルギーが増加した都市部で生活している中高所得層では、過体重と肥満の割合が着実に増加しています。身体的な活動量の多い農村部での生活から活動量の少ない生活に移行することで、こうした食生活の

変化が都市部への移住者の健康にさらに悪影響を及ぼしています。

南アジアでは、肥満、2型糖尿病、メタボリックシンドローム、癌、心疾患などの食事やライフスタイルに関係する疾患が流行疾患並みに増加し、肥満、糖尿病、高血圧が子どもや若者の間で大きな問題となっています。

「初めの1000日」(母親の妊娠期から子どもが2歳の誕生日を迎えるまで)が非常に重要で、この間に母親や子どもが栄養不良状態にあると生理学的・神経学的発達に長期的な悪影響が及ぶことが昨今の研究で示唆されています。2008年に医学雑誌「ランセット」に発表された研究(Victoria, C.Gら)では以下の結論が示されています:「この期間の介入が、学業成績、労働能力、性と生殖に関する健康および成人後の所得に生涯にわたって甚大な影響を与える。子どもが2歳になるまで対策を行わなければ、栄養不良の影響は取り返しのつかないものになる。」

南アジアでは、すぐにも既存の栄養介入プログラムを強化し、乳幼児や幼児の食習慣を改善する必要があります。カロリーとたんぱく質、ならびに微量栄養素を豊富に含む食品のコミュニティ単位での入手の可能性に基づいて介入計画を立てられるよう食糧確保に関するデータの整備が急務です。

さらに行動の変化を通して食生活の多様性を改善する戦略を検証する取り組みも必要です。微量栄養素強化製品やサプリメントの利用が効果的で拡張性のある選択肢になると考えられます。同時に、こうした地域において栄養状態の長期的な改善を実現するには、衛生設備の拡充、安全な飲料水の提供、所得を生む計画の導入、ならびに干ばつ、地震、洪水などの緊急事態のリスクへの対応も同様に重要です。



2015年までに栄養プロファイルを向上させるグローバルな取り組みの一部としてスイス、オーブで行われているシリアル・パートナーズ・ワールドワイド社製品のレシピ改良

「母乳保育と生後6ヵ月以降の
高品質な補助食品の利用は成長
と発達の促進に不可欠です。」

結論と提言

低所得国は、発育不良と必須ビタミン・ミネラルの欠乏症という栄養不良の「二重負担」に取り組まなければなりません。この「二重負担」により、小児期から成年期にかけての死亡、病気および発達の遅れといった深刻な問題が生じています。また、成人の肥満や非伝染性疾患という重大な結果も生じます。

胎児の適切な発育を確保し、乳幼児の栄養摂取を向上するために、若者と母親の栄養に注目することが急務です。母乳保育と生後6ヵ月以降の高品質な補助食品の利用は成長と発達の促進に不可欠です。こうした習慣と併せて、十分な微量栄養素の摂取を継続し、さまざまな食品を摂取させ、また小児期の過剰な体重増加を予防することで、発育不良、成人の肥満およびそれに関連する疾患の低減を期待できます。

こうした習慣の強化と推進が優先課題であり、今後も続くであろう貧困と闘いながらもやり抜いていかななくてはなりません。

ん。また、社会も生物燃料として使用される作物との競争の結果生じた食糧価格や農産物の生産性、水不足、気候の不安定性について高まる懸念に対処しなければなりません。人々の健康、教育の機会および経済的生産性を確保するため、政府や市民団体が共同で組織的にグローバルに取り組む必要があります。

食品メーカーはさまざまな方法でこれに貢献することができます。例えば、WHOなどの科学的根拠に基づく提言を参考に焦点を絞った微量栄養素の強化を行う；健康との関わりから社会的に関心の高い成分の使用量を削減し、果物、全粒穀物、食物繊維の使用量を増加する；栄養バランスや運動の利点などの問題について消費者に教育を行うなどです。

全文は以下をご覧ください。
www.nestle.com/csv/2012/expert
各専門家の見解は著者の独自のものであり、必ずしもネスレの見解に一致するとは限りません。

ネスレと栄養に関するグローバルな課題

世界人口の増加、都市化、所得増加、60歳以上の高齢者の増加など、世界のさまざまな動向が栄養に関する習慣や健康に影響を与えています。

こうした動向によって食べ物の選び方が改善した人もいますが、栄養バランスの悪い食事や活動量の少ないライフスタイルを選ぶ人も著しく増加しています。極端な例として栄養過剰やそれに伴う非伝染性の疾患が広がっています。その一方で、微量栄養素欠乏症やそれに伴う疾患といった低栄養も解消されていません。

現在、世界人口の約半分の健康、ウェルネス、生活が低栄養と栄養過剰の影響を受けています - 乳幼児の心身発達が取り返しのつかないほど損なわれたり、すべての年齢で疾患や早期死亡が増加したり、個人や国の生産性が低下したりしています。

さまざまなタイプの栄養不良

多くの途上国の国民は、低栄養（たんぱく質とエネルギー、微量栄養素の不足）と栄養過剰（過体重と肥満）の「二重負担」に事実上悩まされています。一般的に、世界の低所得者層に属する人々は何らかの形で栄養不良に陥るリスクが高くなります。

食品業界では、すべての消費者が食品を正しく選択・利用することで、最適な栄養を摂取し、健康とウェルネスを謳歌できるよう取り組んでいます。ネスレは「グッドフード、グッドライフ」のスローガンでお約束しているとおり、業界を率先してこれに取り組めます。

私たちの誰もが、栄養学者の言う「身体的・精神的に最高の潜在能力」（下のグラフの青線）を遺伝的に持ち合わせています。ところが、胎児、乳幼児、小児、思春期および成年期での「最適とはいえない栄

養状態やライフスタイル」により身体的および精神的機能が徐々に低下し（グラフの赤線）、健康状態、自立性、クオリティ・オブ・ライフの低下や最終的には早期死亡に至るのです。

「最適な栄養・健康・ウェルネス」に向けた目標

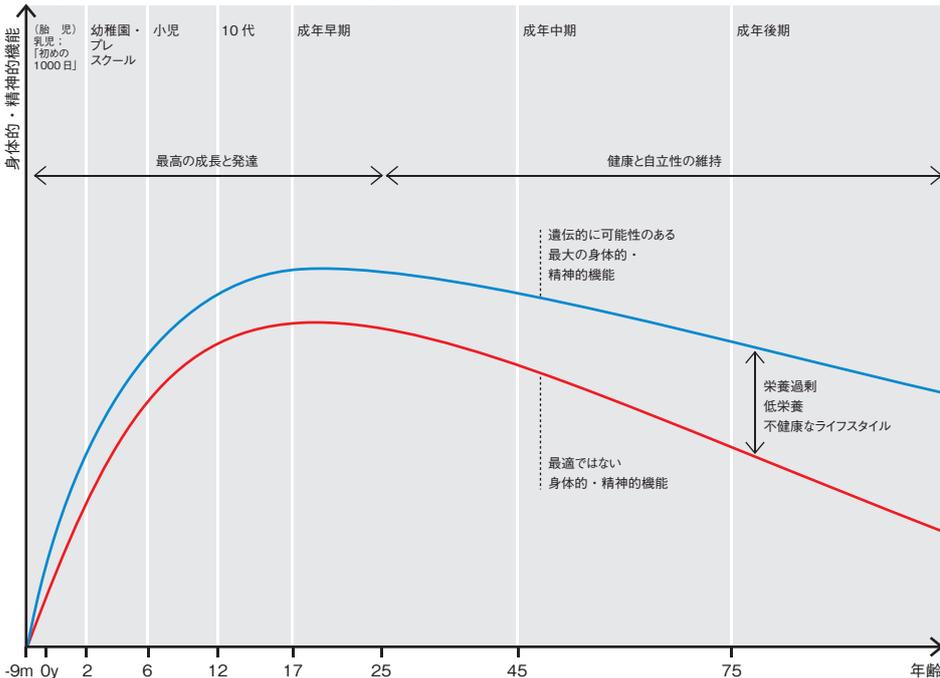
ネスレの目標は、消費者が最適な栄養・健康・ウェルネスを達成できるよう支援することです。そのために私たちは「初めの1000日」（母親の妊娠期から子どもが2歳の誕生日を迎えるまで）、乳幼児期、小児期および思春期の成長と発達の段階という最も重要な人生初期の段階での栄養と健康のニーズを理解し、その理解を通して適切な製品やサービスを開発すべく努力を続けています。これは、栄養面で人生の最善のスタートを切るため、生後6カ月は完全母乳保育というWHOの奨励を支持することから始まっています。

低栄養を回避できるよう消費者を支援

消費者が低栄養を回避できるよう支援する取り組みとして、ビタミンやミネラルを強化したネスレ製品、特に手頃な価格と適切な形状で栄養素を供給できる高品質な製品を手の届く価格帯の製品群として提供し、微量栄養素の不足を予防することに重点的に取り組んでいます。

微量栄養素欠乏症の有病率が最も高い国での幼児や出産年齢にある女性のニーズを私たちは優先し、こうした社会的弱者に好まれる製品の栄養価を高めることで地域特有のニーズに対応しています。

生涯を通じた最適な栄養・健康・ウェルネスの促進



栄養過剰を回避できるよう消費者を支援

私たちは消費者が過体重や肥満になることを回避し、それらに伴う非伝染性疾患（心疾患など）を発症しないようさまざまな方法で消費者を支援しています。私たちは、ネスレ製品の成分やサービングサイズに関する情報を改善し、必要な栄養に関する消費者の啓発を目指しています。また、これ以外の取り組みもサポートしており、運動の利点と併せて水分補給の大切さをお伝えしています。

ネスレの「60/40+」アプローチの一環として厳格な栄養基準を用いています。味覚テストでネスレの製品が競合製品よりも好まれ、栄養的にも優れたものとなるよう製品中の必須栄養素の割合を増やすと同時に、飽和脂肪酸、糖類、食塩の含有量を削減し、消費者に一番おいしく健康的な選択肢を提供できるよう努力を続けています。

「栄養に関する取り組み」セクションでは、今後に向けた栄養に関する5つの課題を取り上げます：

1. 世界の栄養問題に取り組む
科学技術の発達のために
－ ネスレの支援
2. すべての子どもたちが
人生最良のスタートを切るために
－ ネスレの支援
3. 家庭の栄養ニーズに応えるために
－ ネスレの支援
4. 新興国の栄養ニーズに応えるために
－ ネスレの支援
5. 高齢者・特定の栄養素を必要とする方々の栄養面ニーズに応えるために
－ ネスレの支援



ネスレリサーチセンターの代謝研究部門
(メタボリック・ユニット)は、
代謝やエネルギー調節などの分野で
臨床試験を行い、栄養・健康・ウェルネスに
関するネスレの取り組みをサポートしています。



1

世界の栄養問題 に取り組む科学 技術の発達のため に ネスレの支援

世界をリードする栄養・健康・ウエルネス企業として、私たちは栄養不良、微量栄養素欠乏症、肥満、その他栄養に関わる世界的な問題への対応を支援するべく注力しています。ただし、確固たるエビデンスと理解に基づいて行動しなければなりません。

その一例が、栄養不良です。栄養不良には、摂取する食品、その量、生活条件、遺伝子、現在および幼少期のライフスタイルといった複数の要因があります。これらの要因とその相関関係を理解することが、プラス効果を生む解決策（ソリューション）を打ち立てることに役立ちます。

研究開発（R&D）を通じた理解が、製品とテクノロジーにイノベーションをもたらします。これがネスレのポートフォリオの継続的な改善であり、広範囲に長期的に影響力を発揮する解決策です。例えば、急性疾患の治療中の患者や慢性症状に陥りやすい消費者に対するテイラーメイドニュートリションがあります。

ネスレの研究の焦点

ネスレは社内に独自の研究開発部門を持ち、学術機関、政府、研究所、企業ベンチャー、新規事業、サプライヤーおよびNGOといった外部団体とも提携しています。大きく2つの目標があり、食品を通して人々の健康を維持し、慢性疾患の管理に役立つ解決策を見出すことに焦点を置いています。

栄養を学ぶ

ネスレの研究開発の中核となるのがスイスのローザンヌに本部を置くネスレリサーチセンター (NRC) で、科学的知識と研究の中心として世界 32 の研究開発と製品テクノロジーセンターの国際的なネットワークと連携しています。

NRC は、主に 4 分野でネスレの製品開発とイノベーションをサポートしています。栄養と健康、食品科学とテクノロジー、食品の品質と安全性、感覚・消費者科学 (食品に対する人の行動の食事の選択への影響を明らかにする) です。この研究の一部である、子どもの健康的な食習慣に両親が果たす役割では、複数の有用な洞察が提示されています：

- たとえ最初は乳児が嫌がっても、母親や面倒をみる人が健康的な食品を与え続け

75.7%

「ネスレ栄養基盤」の基準以上の製品の割合

15億4000万スイスフラン

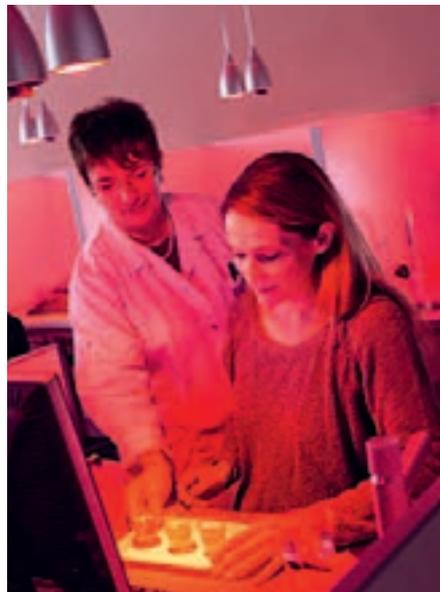
研究開発に対する世界全体での投資額

ることで、その乳児は次第にその食品を食べるようになり、最終的には不健康な食品よりもその食品を好むようになります。

- 乳児の食品選択は、食事を与えている時の母親や面倒をみる人の顔の表情に影響されます。
- 母親や面倒をみる人は、満腹の合図に気づき、食事の与えすぎを防ぐことを学ぶことが可能です。

NRC は、人が食品の咀嚼 (そしゃく) に費やす時間がエネルギー摂取量の重要な決定因子になる可能性を示唆したワーヘニンゲン大学との共同研究を発表しました。

NRC の研究はすべてのカテゴリーのネスレ製品に大きな影響力をもち、300 の応用開発グループから構成されるネット



ネスレリサーチセンターでは、食べる喜びや健康な食品を選択する要因を理解するために行動研究を行っています。

ワークを通して、各国の製品イノベーションに直接利用されています。

イノベーションの実践

「ネスレ栄養プロファイリングシステム」(NNPS) はネスレ製品のベンチマークに使用される厳格なシステムで、WHO(世界保健機関)などの独立機関の推奨値に基づいています。バランスの取れた食事その製品の役割、原材料(脂肪、糖類の添加、カルシウムや全粒穀物)、成人または小児が通常摂取する1サービング単位を考慮し、製品を栄養面から評価します。NNPS 導入後 8 年が経過した 2012 年には、「ネスレ栄養基盤」の基準以上の製品が全体の 75.7% に達しました。NNPS の枠組みはネスレの製品が「ネスレ栄養基盤」の基準に達しているかどうかの評価に役立ちます。達していればその製品はバランスの取れた食生活で頻繁に選択するのに適した栄養基準を満たしていることを意味します。

慢性疾患に対する理解

2011 年、私たちは新しい組織としてネスレ・インスティテュート・オブ・ヘルスサイエンス (NIHS) を設立し、ネスレヘルスサイエンスという新事業を発足しました。



ネスレ・インスティテュート・オブ・ヘルスサイエンスの内部にある研究室、プロテオミクス・メタボロミクス施設において質量分析に使うサンプルを準備するジョン・コーテジー



**バイオ
フォーティ
フィケーション：
不足栄養素の
補給に役立つ
作物の開発**

特に途上国の農村部において、微量栄養素の強化が成人と子どもの微量栄養素不足に役立つ重要な施策であるという認識の高まりを受け、ネスレは微量栄養素を多く含む従来種の作物栽培を目指す研究プログラムを新たに発足しました。これは微量栄養素を多く含む品種に収穫量の多い品

種を交配して行います。例えば、ナイジェリアとコートジボワールではビタミンAを多く含むキャッサバを栽培し、マダガスカルでは鉄と亜鉛を多く含む米を育てています。直接的な栄養強化の補助的手段として、製品ラインアップに将来的に取り入れる予定です。

コートジボワールのヤムスクロにあるネスレの試験農場で行われているキャッサバのバイオフォーティフィケーション（栄養素の生物学的強化）。作物の状態を調べる科学者メラニー・ポールマン（上）、栽培者カン・ファーマン・コウコウと一緒に苗木を検証する農学者フレデリック・アウラ（下）



スイスのローザンヌを拠点とするネスレ・インスティテュート・オブ・ヘルスサイエンスは、心血管、消化器、代謝および脳の機能に関連する慢性疾患や栄養状態との関係の理解に役立つ生物医学的研究に重点的に取り組んでいます。

ネスレヘルスサイエンスは、消費者の慢性疾患管理に役立つテイラーメイドニュートリションだけでなく、老人学、救命医療、外科および小児科で働く医療専門家にターゲットを絞ったソリューションの開発にも取り組んでいます。

ネスレは長年臨床試験を実施しており、2012年は約100件の臨床試験が実施され、さらに多くの製品が開発段階にあります。プロセスを簡略化し、効率を上げて対応能力を拡大するために、2012年に開設された新しい臨床開発部門にすべての臨床試験を統括しました。代謝専門部門を含むこの新しい施設は独立した研究部門として運営されているだけでなく、ネスレの食品や原材料が生物学上、健康、味覚および食べる喜びに及ぼす影響を評価することでネスレをサポートしています。

栄養に関する知識を世界に広める

栄養不良の原因を排除するために、世界中の医療専門家が意味のある最新の情報を必要としています。その情報提供に役立てるために、2005年にネスレ・ニュートリション・インスティテュートを創設しました。以来7年、この独立した非営利機関は栄養に関する情報を発信する民間で世界最大の団体になりました。現在、そのウェブサイトには世界中のほぼすべての国から170,000を超えるユーザーが登録しています。

ネスレ・ニュートリション・インスティテュートは、公衆衛生と医療経済学に関する調査も行っています。詳細は www.nestlenutrition-institute.org をご覧ください。

課題：栄養不良のリスク。
[46ページのネスレの方針をご覧ください。](#)



「スタートヘルシー・ステイヘルシー」
プログラムで医師から情報を得る
インドの妊娠中の若い女性とその義母。

すべての子どもたちが人生最良のスタートを切るために —ネスレの支援

バランスの悪い食事で人生をスタートした子どもは慢性疾患や成長・発達不良のリスクが高まります。

私たちは、子どもにとって適切な栄養摂取は妊娠前、妊娠中から始まり、WHO(世界保健機関)の提言に基づいて、生後6ヵ月またはそれ以降、子どもの離乳の発達段階に合わせて適切な食事を選択できるようになるまでは、栄養状態の良好な母親の母乳保育によってのみ可能と考えています。

私たちは、両親が子どもに適切な食品を選択できるようサポートしています。母親と乳児の栄養サプリメントなど研究に基づく栄養製品を提供したり、両親が子どもの食事を少し変えるだけでもその子の現在と将来の健康に大きな影響が及ぶことを理解できるよう、適切で一貫性のある助言を行うなどしています。

乳幼児用食品の販売促進に対する適切なアプローチを確保

世界保健機関（WHO）の勧告に従い、ネスレは生後6カ月までは母乳のみでの保育、その後も栄養価の高い補助食品と組み合わせできるだけ長く母乳保育を継続できるようにサポートしています。母乳保育が不可能な場合、乳児用調製粉乳は牛乳や重湯などの選択肢に対してより健康的な代替品のひとつになります。

私たちは世界各国の政府が実行しているWHO規約に準拠して乳幼児用食品を販売することに尽力しています。乳児にとって高いリスクを伴う152カ国では、WHO規約の履行に関するネスレの方針と指示または政府規制のうち厳しいほうを適用します。

WHO規約に準拠するために、すべての事業に広範な管理システムを導入しています。このシステムは、すべてのレベルにおいてネスレの方針と現地の規制に準拠するため、母乳代替品の販売とマーケティングに関わるネスレの全社員が業務を遂行する上での詳細なガイドラインになります。

コンプライアンス状況をモニターするために、私たちは非常に多くの社内監査と年3回の外部監査を行っているうえに、「通報」システムと外部機関が管理している報告システムも整備しています。また、乳幼児用ミルクのマーケティングに関するすべての重大な問題を調査し、それらへの対応も行っています。情報源に関わらず、すべての情報は毎年ネスレの取締役会に報告され、業務の継続的な改善に生かされます。

35

母乳保育やその他の乳幼児の栄養に関する問題についてネスレと建設的な対話を行っているNGOや利益団体の数

540万人

64カ国で実施された「ネスレヘルシーキッズグローバルプログラム」に参加した子どもたちの数

250

「ネスレヘルシーキッズ」の実施に協力している学術機関、NGO、政府省庁の数



エクアドルの「ネスレヘルシーキッズ」：64カ国で開催された68プログラムのひとつ

2011年、私たちは母乳代替品の販売に厳格な基準を持つ世界で唯一の指数であるFTSE4Good（フィッチフォーグッド）責任投資株価指数に、調整粉乳メーカーとしては初めて登録されました。

ネスレの「スタートヘルシー・ステイヘルシー」システム

私たちの「スタートヘルシー・ステイヘルシー」世代別栄養システムは、6カ月間は可能な限り母乳のみでの保育をサポートし、その後生後6カ月以上の子どもたちには適切な食習慣と共に健全な成長と発達に役立つ解決策を提供しています。

母親に必要な栄養を提供

私たちは妊娠・授乳中の女性のニーズを考慮し、栄養価の高い乳飲料Mom&Meを開発しました。この製品には、有益なミネラル、ビタミン、DHA およびビフィズス菌BL菌が配合されています。Mom&Meは、既にアジア各国で手頃な価格で販売されています。



ネスレが提携しているIAAFキッズアスレチックプログラムを通して学校での運動を推進

教育を通じた
リーダーシップ：
インドの
「スタートヘルシー・
ステイヘルシー」



世界の栄養不良の子どもの40%がインドに集中しており、栄養に関する情報が不足している女性も大勢います。ネスレの「スタートヘルシー・ステイヘルシー」プログラムには1年未満で約400万人の女性が参加し、彼女らの知識不足を補っています。「スター

トヘルシー・ステイヘルシー」では、印刷物、テレビ、ウェブサイト、また医師が、女性に母乳育児の重要性と「初めの1000日」（母親の妊娠期から子どもが2歳の誕生日を迎えるまで）に最適な栄養についての教育を行うための教材を提供しています。

NRC と
エピジェンコン
ソーシウム -
妊娠中の
栄養摂取を
最適化

NRCとエピジェンコンソーシウム（世界有数の公的および民間セクターのエピジェネティクス専門家と構成される団体）は、子どもが将来良好な代謝機能を得るために、妊娠中の女性とその子どもにとって最適な栄養素の特定と実証を行う研究プログラムを共同実施しています。この研究では、母親と胎児の双方で、遺伝子の機能

が環境要因、例えば妊娠初期の母親の栄養状態などによってどのように調節されるか検証します。エピジェンは、母親と乳児の栄養に関する専門知識を共有するNRCとともに、新しい科学的知識の提供に寄与しています。

ステークホルダーとの対話

ここ数年、ネスレは年次ステークホルダー会議で約35のNGOや利益団体と母乳育児をはじめとする乳児の栄養問題について建設的な対話を行ってきました。

ネスレから完全に独立したネスレ・ニュートリション・インスティテュート（NNI）は母乳育児の推進に重要な役割を果たしています。NNIがインドとバングラデシュで実施したワークショップには多くの関係者が出席し、その後、NNIの代表者らは両国での母乳育児週間の設立に貢献しました。

最高の原材料を調達

一般に最高の製品は最高の原材料から作られます。原材料の品質確保のため、生産物の原産地がどこかを追跡できるよう、私たちは契約農家と密接に協力しています。また、彼らが効率的な栽培方法を導入できるようにサポートしています。コスタリカのタラマンカ地区では、現地の農家が瓶入り離乳食の原材料になる有機バナナの増産と品質向上をサポートしています。

子どもの活動的で健康的な生活を支援

しっかり食べてよく動くことで子どもたちは健康的な体重を維持することができます。私たちは子どもたちの健康的なライフスタイルと食生活の推進をできる限りサポートしています。

2009年に始まった「ネスレヘルシーキッズグローバルプログラム」は、政府や地方自治体、NGO、医療機関、スポーツ団体など、世界250以上の団体と協力して行われています。2012年末までに、64カ国で68のプログラムが実行され、2013～2015年に向けてさらに多くのプログラムが計画されています。2012年には約540万人の子どもたちがこれらのプログラムに参加しました。

プログラム成功の鍵は、現地コミュニティ独自のニーズに合ったフォーマットを用意できるエキスパートチームの質にあります。また、「ヘルシーキッズ」とネスレの製品ブランドを関連づけないよう配慮しています。プログラムの成功には子どもたちの定期的な参加が重要であるという認識から、この18カ月間でプログラムへの参加基準を厳格化しました。また、健康に対する認識への影響を評価する方法も改良しました。

2012年1月、ネスレは世界最大の一般向けスポーツ開発プログラムのひとつである国際陸上競技連盟（IAAF）のキッズアスレチックプログラム（Kids Athletics Program）のメインパートナーになりました。また、ネスレは世界最大の肥満予防ネットワーク、EPODE（Ensemble, Prévenons l'Obésité Des Enfants-力を合わせて子どもの肥満を予防しよう）国際ネットワークの創設メンバーでもあります。さらに、国際糖尿病連合とネスレは、糖尿病に関する教育と予防を推進する合同プログラムの設定に向けて協力する予定です。

課題：子ども向けの栄養価の高い製品の提供。
46ページのネスレの方針をご覧ください。



子どもやティーンエイジャーに料理に興味を持ってもらうために、マギーは簡単にできる料理のレシピ本をドイツの家庭に提供しています。

家庭の 栄養ニーズに 応えるために —ネスレの支援

ネスレの製品の多くは、家族と、時代と共に変化する彼らの栄養ニーズに注目しています。ネスレの製品には、全世代向けの食品・飲料だけでなく、子ども、健康な成人、高齢者のために開発された食品・飲料があります。

栄養問題に取り組む上で、家族のメンバーによって異なるニーズを理解することが益々重要になっています。乳幼児期に習得した食習慣が生涯継続することはすでに明らかになっています。子どもや大人の肥満が世界的に問題視され、高齢者が栄養不良に陥りやすいことも認識されています。

私たちはこうした問題に対処する製品やサービスを用意し、その改良と同時に新しい解決策の開発にも努めています。また、幼児期から高齢期に至るまで、家族のメンバーに注目する形で栄養に関する助言や、世界各地での教育イニシアチブへの参加を行っています。

製品試験プログラム「60/40+ (シックスティ・フォーティ・プラス)」を使って消費者に好まれるネスレ製品の栄養価を改善

ネスレは、健康的な食生活を持続するには食事が楽しいものでなくてはならないと確信しています。ネスレ独自の「60/40+」プログラムでは、製品が多数の消費者を対象とした調査で少なくとも60%に好まれるものとなるように、常に製品の改良を行っています。ネスレがどこで事業を展開しようとも、製品の設計で重要なのは現地の消費者の栄養ニーズであることから、栄養評価は現地で行われています。

「60/40+」アプローチを利用して、既に89カ国で19の異なるカテゴリー（「標準的な」味評価を行えない新生児用製品および臨床用製品等を除くすべて）について製品の評価と改良を行ってきました。この例として、Skinny Cow、Edy's Slow Churned、ピーラブルバナナアイスクリームなど、競合製品と比較して低脂肪低カロリーのアイスクリームブランドがあります。またフランスではハム製品 Herta の塩分を減らしました。ネスレとゼネラルミルズの合併事業であるシリアル・パートナーズ・ワールドワイド (CPW) は、2015年までに朝食用シリアル20ブランドについて、1サービング当たりの砂糖の含有量を9グラム以下に削減する方針を掲げています。



シリアル・パートナーズ・ワールドワイド社のレシピ作成の一部として、スイス、オーブで再調合を行う味覚専門家のレジーナ・アルスラニアン

現在、CPW は、毎年約35億食のシリアルを売り上げています。

健康に留意した製品のビジネスケース

私たちは、おいしくて健康的な製品に注力することはビジネスの観点からも望ましいと考えています。独自の追跡システムを導入した2009年以降、「60/40+」を達成した製品は他のポートフォリオに勝る実績を上げ、毎年、オーガニックグロース、実質内部成長率および利益率を伸ばしてきました。これは消費者の皆様の期待に応えるためにレシピの改良を続けてきた成果です。

ネスレ ニュートリショナルコンパス

ネスレ製品の96.8%に「ネスレ ニュートリショナルコンパス」(NNC) が表示されています。NNCは、消費者がネスレの食品・飲料について情報に基づいた判断を行えるように、2005年に導入されたパッケージへの表示規定です。消費者の指針になる関連情報として栄養成分表、製品を楽しく健康的に使用するためのヒント、さらに役立つ情報の問い合わせ先を記載しています。

ネスレが行った調査の結果、消費者の約60%がコンパスを有用と考えていることが判明し、私たちは彼らのフィードバッ



「ネスレニュートリショナルコンパス」：アルゼンチンのネスレSvelty強化ミルクの表示

クを参考に、内容を改善するなど引き続きその改良に努めています。

パッケージのカロリーガイド表示 (GDA)

消費者がより多くの情報に基づいて食品を選択できるように、2006年に業界公約の一環として、EU地域で製品のパッケージに成人向けのカロリーガイド表示 (GDA) を追加しました。GDAはエネルギーや主要栄養素の1日摂取量を示す事実に基づいた客観的なガイドであり、消費者が1日の食事における製品の役割を評価するのに役立ちます。EU地域では、現在、ネスレ製品の99.3%にGDAが表示されています。EU地域以外では、GDAの自主的な導入が急速に進んでおり、ネスレのグローバルな方針に基づき、世界各地でネスレ製品のパッケージの前面にGDAを追加する予定です。

消費者に栄養に関する情報を提供

「ネスレ ニュートリショナルコンパス」は消費者に栄養に関する情報を提供する素晴らしい方法ですが、それだけではありません。より多くの製品で「…について詳しくはこちらへ」とウェブサイトを案内しているほか、私たちは世界各地で現地の、あるいは全国的な栄養教育プログラムに関わっています。

マギーを使って バランスの 取れた食事の 作り方を 家族に教育

マギーブランドでは、塩分を減らし、適切な微量栄養素を追加することで製品の栄養価を高めることに加え、ドイツなどの市場で調理に関する教育プログラムを積極的に展開しています。パッケージ、オンライン、特別に作られた料理本でのメッセージを通して、マギーは家族が料理の腕を上げる手伝いをし、彼らが新鮮な食材と

少ない脂肪や塩分でバランスの取れた食事を作るようサポートしています。マギーは直近8年間でその製品群から11,700トン相当の塩分を削減し、さらに塩分を減らす努力をしています。

Jenny Craig による 体重管理の サポート

1983年にオーストラリアで発足して以来、Jenny Craigはバランスの取れた栄養摂取と運動を通して世界中の数百万人の体重管理をサポートしてきました。プログラムの基本は、食事、身体、精神の3つです。Jenny Cousineの食事は、運動についての助言と組み合わせられ、生活においては「高い意識を持って」バランスの取れたアプローチを重視します。Jenny

Craigは、Jenny Craigセンター、あるいはJennyダイレクトを通して電話やオンラインでコンサルタントがクライアントを1対1でサポートすることが重要と考えています。

詳細は www.jennycraig.com をご覧ください。

私たちは、毎日のより良い水分補給を奨励する取り組みを行っています。毎日十分な水を飲むことは健康的な習慣であり、その習慣の獲得には幼少期が最適です。私たちは、4カ国（イタリア、米国、英国、フランス）で登校時の子どもたちが十分な水分補給を行っているか調査を行いました。その結果、子どもたちの3分の2が

水分摂取不足でした。ネスレではこれらの市場で情報普及キャンペーンを実施しています。また、プロジェクトWET (Water Education for Teachers) イニシアチブを通して学校で使える「水分補給ツールキット」を作成していますが、これを「ネスレ ヘルシーキッズ プログラム」にも徐々に取り入れる予定です。



ネスレ ピュアライフ：テキサスユースフットボールとチアリーグのメンバーによる健康的な水分補給の奨励

食品の適切な摂取量について親子を支援

調査の結果、多くの国で消費者が「普通の」1サービングと見なす量が以前より増えており、活動量の少ない生活をする結果として摂取カロリーが過剰になり、それが過体重や肥満の原因になっていることが判明しています。さらに、多くの消費者で必須栄養素の摂取量が不足しています。その理由として、低所得で生活している、栄養価の高い食品を入手できない地域に居住している、あるいは調理技術が低いといったことが考えられます。また極端に制限した食生活を送っている、(成長期や妊娠など) 人生の特定の段階にあることで栄養ニーズが高い、または健康状態が不良である、栄養摂取を妨げる薬を服用していることなども原因となります。

「ネスレ ニュートリショナルコンパス」とGDA表示を補うものとして、2011年には消費者がパッケージの指針に基づいて1サービングをより適切に判断できるよう、ポーションガイダンス・フレームワークを導入しました。これは、消費者への明確な摂取量情報の提示を求めている政府、規制当局および保健機関のイニシアチブとも一致しています。2012年、私たちは世界各国の政府が示している最新の「食品ガイド」と食事摂取基準を検証しました。それを基に、ネスレの各製品カテゴリーについて、年齢やライフステージに合った適切な1サービングを決定しました。サイズを限定しすぎると消費する時点で個人々の必要量に合わないことがあるという事実を考慮し、多少の幅を持たせてあります。

現在、1サービング量をわかりやすく表示するために、ネスレの製品チームと消費者情報の専門家が体系的に製品レンジについて見直しを行い、必要に応じて問題を提起しています。2012年末の連結ベースでの予測では、具体的な1サービング量を示した製品の売上は262億スイスフランに上ります。

課題：健康への関わりから社会的に 関心の高い成分の削減

46ページのネスレの方針をご覧ください。
[\(public health sensitive ingredients 2009 レポート\)](#)



ビタミンAと鉄分を強化した
手頃な価格の朝食用シリアル
Golden Mornを楽しむ
ナイジェリアの家族



4

新興国の 栄養ニーズに 応えるために —ネスレの支援

FAO（国際連合食糧農業機関）は、「特に子どもを中心に低栄養が解消されていない一方で、過体重、肥満および食生活に関連する慢性疾患という栄養不良の『二重負担』を背負わなければならない途上国が増えている」と述べています。

ネスレは低栄養の就学前児童と妊婦特有の貧血から心疾患や糖尿病などの肥満に関連する慢性疾患まで、この「二重負担」とそれに関連する問題への対応に役割を果たす決意をしました。

私たちは、ネスレが提供する製品、助言および他の機関との栄養に関わるイニシアチブへの関与を通し、肥満と栄養不良の「二重負担」への対処に協力します。私たちは、新鮮な素材を使って調理するなど人々が食事にもっと気を配り、健康的な食生活を送られるよう奨励してまいります。

手頃な価格の製品に含まれる栄養素の強化

ネスレは140年前から栄養の強化に取り組んでおり、それに関係するプロセスと問題を十分に理解しています。私たちはその専門知識を生かし、現地や地域の欠乏症に対処できるよう、さまざまな微量栄養素を組み合わせ強化しています。また、ネスレの製品に含まれる健康への関わりから社会的に関心の高い成分（飽和脂肪酸やナトリウムなど）の削減も行っています。

栄養強化製品がそれを最も必要としている人に届けられることが重要です。ゆえに、製品は入手が簡単で、おいしく、栄養価が高く、手頃な価格でなくてはなりません。

私たちは、所得が多くない人たちに十分な栄養を提供する高品質な製品として、手の届く価格帯の製品群（PPP）の販売数を伸ばしています。その中には調理済みの製品から飲料・乳製品など、あらゆるものが含まれます。現在、世界中で4,000を超えるPPPが販売されています。

現地のニーズに合わせたマギーブランドの栄養強化

私たちはマギーブランドを通して発展途上国の人々向けに微量栄養素を強化する対策で大きな前進を遂げることができました。ブイオン、シーズニング、ヌードル、スープ、レシピミックスなど、マギー製品のうちヨウ素を強化したものは世界全体で86万トンに上ります。個々のサービングサイズに基づき、2012年にヨウ素を強化した製品のサービング数は合計で約1,000億になると試算しています。ヨウ素以外に、インド、パキスタン、スリランカ、カリブ海地域、中央アメリカ、中央・西アフリカ諸国および太平洋諸島では鉄の強化プログラムを開始しました。2012年にこれらの国で販売されたブイオン、シーズニング、ヌードル製品約10万トンのうち、ネスレ製品の約320億サービングが鉄を強化したものでした。

1000億

世界全体で販売されているヨウ素強化マギー製品のサービング数



フィリピンのスーパーマーケットで販売されているビタミンA、鉄、亜鉛、ビタミンCを強化したBearブランドのミルク

こうした栄養素の強化をパッケージに示したり、マーケティングキャンペーンを行ったりすることに加え、新鮮な現地の食材を自宅で調理する利点を紹介したことで、2年間で低所得の消費者におけるマギーの市場浸透率が30%～40%増加しました。インドを含む途上国の多くでは、市場シェアを維持したままマギー製品の塩分量の削減に成功しました。

粉末ミルク製品の栄養強化

乾燥粉末ミルクは微量栄養素の配合に非常に適しているだけでなく、低所得の人々がこれまでの食習慣を変更することなく利用できる製品でもあります。2011年末までに、幼児向け粉ミルクブランド（Nido, Klim, Bear Brand, Nespray, Essentia, Idealなど）の手頃な価格のミルク製品が60以上の途上国で販売され、売上はわずか1年で約14%増加しました。

栄養不足を補う栄養強化シリアル

乳幼児は、発達のある段階で母乳の栄養を補う固形食を必要とします。世界の一部の地域では、現地で入手できる補助食品に主要栄養素が含まれていないことがよくあります。私たちはこうした不足栄養素を補う低価格の栄養強化乳幼児用シリアルを開発しました。

微量栄養素の供給における地域差に注目

公衆衛生に関するネスレ・ニュートリション・インスティテュートの取り組みとそれによって浮き彫りにされた問題から、そのニーズが最も高い地域の事情に留意した取り組みが重要であることが明らかになっています。例えば、ミルクは多くの国で微量栄養素の強化に適していますが、中国では人口の80%がラクトース（乳糖）不耐症であることから、調理ソースやシリアルなどの別の製品を使った方がよいということになります。また、インスティテュートは途上国において母親とその胎児に影響する栄養不良の問題を明らかにすることに尽力するとともに、栄養に関するその他の



フィリピンのリバで包装されるアクチゲンEを含む麦芽飲料ミロ

Golden Morn を通して ナイジェリアの 微量栄養素 欠乏症に対処

ナイジェリアでは、就学前児童の約3分の1がビタミンA欠乏症ですが、幼児の4分の3と妊婦の多くは鉄欠乏症です。この問題に対処するために、ネスレは手の届く価格帯製品Golden Mornファミリーシリアルに鉄とビタミンAの両方を強化しました。ナイジェリアでは、毎年2億1,000万サービング以上のGolden Mornが消費されているため、栄養素を強化することで、国内の家族が毎朝の食事を通して栄養の摂取量を増加できます。また、作物の品質向上プロジェクトを通して、Golden Mornの原料となるトウモロコシを栽培しているナイジェ

リアとガーナの農家に対する支援も行っています。ネスレは、国際熱帯農業研究所と協力し、自然発生するマイコトキシンの損害リスクを低減し、収穫量と品質を高め、最終的には売価の上昇にもつながる簡単な栽培習慣を守るよう農家への研修を行っています。2009年の開始以来、現在までに30,000軒の農家がプロジェクトの恩恵を受けています。

問題に対処する触媒の役割も果たしています。

栄養・健康・ウェルネスの面で消費者のニーズに対応する製品を開発できるよう、ネスレは2010年に「栄養分野の展望」議定書を作成しました。これには健康に関わる現地の専門家や当局との協力、さらに詳細な消費者調査により入手した微量栄養素の欠乏に関するデータが含まれます。この議定書は、さまざまな消費者層のニーズに対応する製品やコミュニケーションを開発する際に役立っています。

栄養不良の インドの消費者 にマギーが もたらした 栄養強化の 「魔法」



インド、マナーサルの新しい研究開発センターで働くシェフ。このセンターでは低所得の消費者向けに栄養価が高く、手頃な価格帯の製品に注力しています。

現在、世界で20億人が微量栄養素欠乏症に苦しんでいます。その3分の1はインドに居住しています。インドでは著しい経済成長の一方で、貧困による栄養不良の比率が高くなっています。一部の重要な微量栄養素について、人口の70%以上はRDA(1日当たりの推奨摂取量)の50%未満しか摂取しておらず、特に女性と子どもが大きな影響を受けています。主要な栄養素を消費者にとって手頃な価格で魅力的なものとするために、ネスレは2010年に1サービングに1人当たりのRDAの15%以上に相当する鉄、ビタミンA、亜鉛およびヨウ素を強化した低価格のマギー Masala ae

Magicを発売しました。最貧地域の消費者にも届くように、ネスレは家族をターゲットにした街頭説明、テレビCM、教育キャンペーンを展開し、世界最大のスラム街ダラビに栄養士を派遣しました。現在までにマギー Masala ae Magicは3億8000万袋を売上げ、複数のイノベーション賞を受賞しました。パングラデシュとスリランカでも同コンセプトの製品を展開しています。

詳細は
www.nestle.com/csv/2012/maggiindia
をご覧ください。

健康の経済学に注目

2008年の栄養報告書に対するフィードバックを受け、私たちは栄養強化食品が個人とマクロ経済に及ぼす影響について理解を深める目的で独立した調査基金を創設しました。

チューリッヒ応用科学大学との合同プロジェクトにおいて、強化ミルクと乳児用シリアルが貧血を50%も解消することが立証され、貧血の有病率が最も高い場所を強調表示した「貧血マップ」が作成されました。プロジェクトは、現在栄養不良のマクロ経済的影響の評価に焦点を置いています。世界銀行グループが行った別の調査は、栄養不良を解消する対策を行うことで国内のGDPが2%~3%上昇することを示唆しています。このプロジェクトでも同様の結論に達すれば、栄養強化食品の提供に対して現地政府が一部資金を提供することの後押しとなるかもしれません。

課題：微量栄養素欠乏症への対応。
46ページのネスレの方針をご覧ください。



関西リハビリテーション病院（大阪府豊中市）にて、リソース・ペムバル アクティブの製品特徴、利点を説明する管理栄養士。リソース・ペムバル アクティブには、自立した毎日を過ごしたい高齢者に大切なたんぱく質、ビタミンD、カルシウムが豊富に含まれています。

高齢者・特定の 栄養素を必要と する方々の栄養 面ニーズに応える ために —ネスレの支援

「栄養」も大きな関わりをもつ非感染症や慢性疾患に悩む人々の増加は、世界各国の医療制度に大きな負担となっています。

ネスレは家庭で調理し食事を摂られる方々への栄養の解決策を主に開発していますが、同様に病院、学校、レストランなどの家庭外でのニーズにも対応しています。

特に、急性疾患や慢性疾患の治療を受けている方々や遺伝的に特定の体質をもつ方々に対して、140年間蓄積された研究開発の専門知識、リソースなどを活用し、個人の状態に応じた科学的根拠に基づくテイラーメイドニュートリションを開発できると確信しています。端的に言えば、私たちは「食品と医薬品の間に位置する」独自の栄養製品の提供という新しい産業の創出を目指しています。



米国、サンディエゴのPrometheusラボラトリーズで消化器疾患の解析のために患者の血清を受け取る検査技師

高齢者に対する適切な栄養と解決策の提供

栄養不良は年齢とは無関係で、欧州連合だけでも約 2,000 万人がそのリスクにさらされています。栄養不良の治療費として毎年 1,700 億ユーロが欧州の医療制度から支払われています。この問題は高齢者においてさらに顕著です。介護施設で生活する高齢者と 1 人暮らしの高齢者の 3 人に 1 人がすでに栄養不良の状態か栄養不良に陥るリスクにさらされています。人口の高齢化に伴い、何らかの対策を取らなければ問題は悪化すると思われる。

ネスレ・ニュートリション・インスティテュートが提供する「ネスレ ミニ・ニュートリショナル・アセスメント」(MNA[®]) は有効な栄養スクリーニング・評価ツールとして、医療従事者が栄養不良やそのリスクにある高齢者 (65 歳以上の人々) を特定するのに役立ちます。1991 年にネスレリサーチセンターと Toulouse 大学が共

同開発し、その有効性を向上させるために最近改良された MNA[®] は、「質問票」と、体重に基づく BMI (肥満度指数) の計算ができない場合に使用する「ふくらはぎ周囲の計測テープ」で構成されています。MNA[®] は、2011 年、その年に日本で起きた東日本大震災後に有効に活用されたことで、公益財団法人日本デザイン振興会によるグッドデザイン賞を受賞しました。現在、複数の言語に翻訳され、今後対応言語を増やす予定であると同時に、MNA[®] はインタラクティブなツールであるため、iPhone などの携帯用デジタル機器に適したデジタルバージョンも用意され、進化を続けています。

また、ネスレヘルスサイエンスは、医療従事者や介護者が体の弱っている対象者の嚥下障害リスクを早期に発見するための「EAT-10」という評価ツールを開発しました。食物や飲み物を飲み込むことが困難になる嚥下障害は、高齢者や特定の神

1700億ユーロ

栄養不良に関連する欧州の医療制度の年間負担額

1900

肥満の増加に対応するフランスの法律、GEMRCNの要件を満たしているダビジェルの顧客数

経症状のある人に多く見られる状態です。嚥下障害は栄養不良につながり健康に重大な影響を与えますが、嚥下障害のある患者の 75% はその診断を受けていないのが現状です。

「EAT-10」は、ネスレおよびネスレヘルスサイエンスが現在開発または研究しているさまざまな疾患別および個々の状態に応じたテイラーメイドニュートリションで使用される一例です。

DioGenes コンソーシアム - 体重の問題 への理解

2012年、ネスレ・インスティテュート・オブ・ヘルスサイエンス (NIHS) は、EUが資金提供し現在ヨーロッパで行われている、体重管理に関する最大規模の多施設における食事介入の研究であるDioGenesコンソーシアムに参加しました。NIHSチームは臨床検体の解析を行っており、体重

減少と体重維持に関係するメカニズムに対する理解をサポートする目的でこの試験に遺伝子データを組み入れる予定です。最終的に、この研究は欧州のコミュニティーに住む人々に体重問題について適切な提言を行うための基盤になるはずで

CréaMenu - ケータリング 業界の 栄養ニーズに 対応

ケータリング業界向けの栄養ソリューションの提供を専門とするダビジェルは、3,000以上の製品やレシピのオンラインデータベースから顧客がメニューを選べる専用のオンラインツールを発売しました。これらのメニューは、ダビジェルのお客さまが入院患者、児童、あるいはレストランの

お客さまであっても、各々の栄養ニーズに対応できるようテイラーメイドになっています。結果として、ダビジェルのフランス国内の顧客1900社以上が肥満の増加に対抗するフランスの新しい法律、GEMRCNの条件を余裕を持って満たせるようになりました。

ネスレ・インスティテュート・オブ・ヘルスサイエンスでは生物医学的研究に注目

ネスレ・インスティテュート・オブ・ヘルスサイエンス (NIHS) は、テイラーメイドニュートリションに関する研究の中心として2011年にスイスのローザンヌ工科大学 (EPFL) 内にオープンしました。

栄養分野におけるネスレの歴史と経験を基に、NIHS は、遺伝学、プロテオミク

ス、代謝学、システムバイオロジーなど、生物医療に関する最新の知識と技術を活用して、私たちが口にする食品や飲料、ライフスタイル、遺伝的因子、個人の代謝機能の相互関係の理解に努めています。

消化器疾患 (過敏性腸症候群、炎症性大腸疾患、クローン病など)、代謝性疾患 (特に糖尿病と肥満)、および脳疾患 (特に認知力の低下やアルツハイマー病) という慢

性疾患の3つのカテゴリーに焦点を当てています。

NIHS では、栄養と遺伝子が健康と疾患にどのように影響するかに広く着目した科学プロジェクトが進行中です。不適切な食生活から健康的な食生活に移行した場合に遺伝的要素が人々にどう影響するかを検証するゲノム相互作用試験、DioGenes コンソーシアムを通して欧州で行われている体重管理の大規模研究、ビル・アンド・メリング・ゲイツ財団との必須栄養素に関するワークショップなどがその例です。

ネスレヘルスサイエンスの新製品に知識を活用

ネスレヘルスサイエンスはすでに治療中の患者の栄養状態に特に注目し、科学的根拠に基づくテイラーメイドニュートリションの開発を目指しています。2011年のネスレヘルスサイエンスの設立以降、多数の買収が完了したことで、高齢者医療、救急医療と手術、小児医療という急性期医療の3つの分野に注力する準備ができました。買収した企業に、特定のアミノ酸に不耐性を生じる遺伝的特性のある人々向けの栄養製品を開発していた英国企業のVitafloがあります。この企業は慢性の消化器症状、代謝および脳の疾患への対応にも取り組んでいます。

長期的には、ネスレヘルスサイエンスは糖尿病や心疾患など、より複雑な疾患に対しても、テイラーメイドニュートリション製品の提供を目指しています。過敏性腸症候群、大腸がんなどの消化器疾患に対する製品を開発しているCM & Dファーマや、胃腸病や腫瘍を診断・治療する製品を開発しているPrometheusラボラトリーの買収はこうした長期的な計画を考慮したものです。ネスレヘルスサイエンスは、さまざまな消化器症状を持つ人々に向けた食品を生産しているニュージーランドの企業、Vitalフーズにも資本参加しています。

課題: すべてのライフステージでの栄養不良。46ページのネスレの方針をご覧ください。



先天性代謝異常の子どもを持つ母親にたんぱく質を含まないミルク代用品Prozeroの使い方を説明するVitaflo UKの地域担当マネージャー、エマ・プラント (左)



中国、双城工場に近い
ネスレの収集センターに
ミルクを運ぶ農夫

サマリー:2012年の「共通価値の創造」、 サステナビリティおよびコンプライアンス

本報告書では栄養に関する私たちの取り組みを説明していますが、これは社会におけるネスレの取り組みのひとつの側面に過ぎません。このセクションでは、コンプライアンス、人権、環境サステナビリティ、水資源、農業・地域開発におけるネスレの成果の一部を紹介します。

2012年を通して、私たちは「共通価値の創造(CSV)」、環境サステナビリティおよびコンプライアンスに関する目標を達成すべく取り組んできました。私たちは、栄養、水資源、農業・地域開発に関連する100以上のプロジェクトを進め、数千人もの社員のエネルギーと想像力を活用する他、必要に応じて会社の原則やポリシーを改訂することで、ネスレが常に先頭に立ってベストプラクティスを実践できるよう努めています。

2013年4月に発行されたネスレのオンライン報告書と併せ、本要約版ではCSVの実績を報告しています。特に注記のない限り、2012年12月31日末のネスレの全世界の事業を対象としています。

データは、特に明記がない場合は、合併事業やサプライヤーを除く、ネスレの完全子会社や関連会社を対象としています。環境関連データは工場のみを（最近買収されたものを除く）、また、健康・安全面に関するデータは約33万9,397人の全社員（正社員と臨時社員）とネスレの施設で働く約11万2,775人の契約社員を対象としています。

「共通価値の創造」のオンライン版 (www.nestle.com/csv) は、ビューロー・ベリタスが独自に保証するものです。

社会ピラミッドにおけるネスレ



ネスレ製品に使用される原料の生産を直接契約している農家は約69万軒で、工場の73%は農村部に立地しています。したがって、農業・地域開発はネスレにとって中核的分野であり、「共通価値の創造」の3つの注力分野のひとつにもなっています。

農業・地域開発の管理

ネスレのCSV顧問委員会の助言に従い、私たちは一貫した方法で農業・地域開発を行うための農業・地域開発の枠組みを開発しました。この枠組みでは、ネスレの工場周辺のコミュニティのサポートにも重点を置いています。サプライチェーンと農家、農場労働者、彼らが居住するコミュニティなどの関係者との間にある目的のギャップや共通点に注目することで、事業や社会における価値の創出を目指します。この枠組はネスレが原料の農産物の大半を購入している取引相手の役割、ならびにコミュニティにサービスを提供する政府の役割を考慮したものとなっています。



メキシコのタバスコ州、カルデナスで「ネスレ カカオプラン」の展開を始めました。ネスレのアドバイザー、ルベン・ジメネスに相談するカカオ農家のユーゲニオ・パウティスタ・ペラスケス（左）

農家の成功

ブランドに対する消費者のロイヤルティを構築するのと同様に、将来的に原料を確実に入手できるように、「農家のロイヤルティ」を構築する必要があります。私たちは、「適切な農家」を選び、彼らに公正な報酬を支払い、環境とサステナビリティに関するベストプラクティスに順じた農業を行ってもらうことを目指しています。2012年、私たちは44,000軒の農家に3,780万米ドルに相当する間接・直接の支援を行いました。そのうち2,300万米ドルはネスレによる直接的な金銭的支援として提供されました。2012年は、農学者を含め、1,100人以上の専門家と12,000人以上のサポートスタッフがこれらのプロジェクトに関与しました。

農場労働者の人権の尊重

多くの農場労働者が劣悪な労働条件の中で働いており、私たちはこうしたリスクに対処し、ネスレのサプライチェーンにおける人権を確保するべく他の関係者と共同で取り組んでいます。

2012年1月、私たちは、カカオ、ヘーゼルナッツ、バニラの生産現場を優先分野として、農業サプライチェーンにおける児童労働に関する方針（全文は www.nestle.com/csv/ruraldevelopment/sourcing/tacklingchildlabour を参照）を発表しました。2月、ネスレは食品メーカーとして初めて公正労働協会（FLA）と提携しました。協会との協力では、トルコのヘーゼルナッツのサプライチェーンとコートジボワールのカカオのサプライチェーンにおいて、労働者の労働条件と権利を守ることに焦点を置いています。

コミュニティの繁栄

農業・地域開発の枠組みでは、ネスレの工場周辺のコミュニティのサポートにも焦点を置いています。2012年、ネスレは社会的ニーズと事業上のニーズに基づいて優先順位を定めた21カ国に投資を集中

73%

農村部に置かれているネスレの工場の割合

44000

総計3,780万米ドルに上るネスレの財政的支援を利用した農家の数

することを決めました。2013年初めには、影響の大きさやインパクトを与えられる力、さらにはネスレの事業との関連性に基づいて関与すべき優先分野を特定する評価を行う予定です。

ネスレウォーターズでは、工場周辺のコミュニティが常に大切なパートナーであり、彼らとの関係が鍵を握っています。フランスや米国などの国でのこれまでの経験に基づき、ネスレウォーターズは、2012年に工場とコミュニティとの関わりを説明したガイドブックを発行しました。その後、2013～2014年の世界的な展開の前に、アルジェリア、アルゼンチン、ブラジル、エジプト、トルコで試験的プロジェクトが始まっています。

連携、協力そして支援

農業・地域開発の目標を達成するには、取引相手やサプライヤーにも私たちと同じ目的に向かって取り組んでいただく必要があります。また、専門的なパートナーを採用し、ネスレが優先する国々でこれを支持するポリシーが制定されるよう焦点を絞った支援戦略を実行する必要があります。

責任ある調達

サプライヤーが主要原料に関するネスレの原則を理解し、それに順じた行動を取ってくださるよう、ネスレはパーム油、大豆、紙とパルプ、ミルク、コーヒー、カカオ、砂糖、ヘーゼルナッツ、バニラ、シーフードに関する責任ある調達ガイドライン（RSG）を作成し、近い将来、これに、動物福祉の項目を取り入れる予定です。その目的は、サプライヤーにネスレの事業原則



**ネスプレッソ・
エコラボ
レーション -
コーヒーと
サステナビリティ**

ネスプレッソの「AAAサステナブル・クオリティ (持続可能性品質)™プログラム」の基準に合致する摘み立てのコーヒーチェリーを手にするコロンビアの栽培者

2009年に始まったエコラボレーションプログラムを通して、ネスプレッソは品質とサステナビリティに深い関係があることを証明しています。

エコラボレーションでは、ネスレのコーヒー豆の品質の向上と安定した供給、事業が環境や社会に与える影響の管理、ならびにコーヒー農家、その家族、コミュニティの生活の向上を目指しています。2012年、ネスプレッソはエコラボレーションを通してサステナビリティに関するすべての取り組みをまとめ、持続可能な調達、リサイクルの強化と二酸化炭素削減に対して大胆な方針を示しました。

ネスプレッソは現地の農学者などのパートナーと協力し、農家が当社

の「AAAサステナブル・クオリティ (持続可能性品質)™プログラム」の基準を満たす産物を収穫し、割増報酬を得られるよう農家に対する助言やサポートを行っています。ネスプレッソブランドが21の市場で設置した専用カプセル収集ポイントは約2万となり、年間のリサイクル目標の75%に早々と到達しています。また、エネルギー排出削減に関しては、豆の栽培の段階だけでなく、ネスプレッソ愛用者向けにさらにエネルギー効率の良いコーヒーマシンを導入することで、購買の段階でも実践されています。

 [ネスプレッソ・エコラボレーションの詳細はwww.nespresso.com/ecolaborationをご覧ください。](http://www.nespresso.com/ecolaboration)

ならびに社会や環境に関する方針に順じて業務を行っていただくことです。2010年にトレーサビリティプログラムが始まって以降、パーム油分野での取り組みが大きく進展しました。2012年末時点でネスレが購入したパーム油の80%は認定済みの

持続可能なパーム油でしたが、その内訳は13%が追跡可能なRSPO(持続可能なパーム油のための円卓会議)認定油、67%がグリーンパーム認定油でした。私たちの目標は、責任ある調達ガイドラインに照らして独立した評価と検証を受けた、農場ま

で追跡可能なパーム油の量をRSPOの方針を上回るレベルまで増やすことです。

責任ある調達のイニシアチブ

2010年、ネスレは主要原料と包材を含め、私たちの製品が森林破壊の原因とはならない、という方針を打ち出しました。現在、ネスレはこの問題に関係する原料(パーム油、大豆、牛肉および紙)のRSG、ならびに乳製品、カカオ、コーヒーおよび砂糖の影響も考慮することでこの方針の達成に取り組んでいます。

「ネスレ カカオプラン」

「ネスレ カカオプラン」では、農家が収益性のある農業を行えるようにする、社会的条件を改善する、持続可能な高品質のカカオを調達するという3つの柱に注力することで、カカオ農家の生活と農産物の品質の向上を目指しています。2012年には全世界で27,000軒以上の農家に研修を行い、110万株の苗木を配布し、コートジボワールで12の学校を建築または修繕したほか、児童労働を排除するネスレの取り組みをさらに進めるために公正労働協会との提携を開始しました。

ネスレにおける責任ある調達の成果

責任ある調達は以下の3つのプログラムで構成されています。

- 監査プログラム - 第一線のサプライヤー: 労働基準について言及し、健康と安全、環境と業務習慣についても規定したネスレサプライヤー規約の要件に照らした監査
- トレーサビリティプログラム - ハイリスクのカテゴリー: パーム油、大豆、紙、砂糖など、農家から直接購入しないすべての当該産物を追跡
- ファーマー・コネクトプログラム - 農家から直接購入: 農家から直接購入するすべての原料に適用

課題: 持続可能な地域コミュニティ
[47ページのネスレの方針をご覧ください。](#)

世界的な人口増加、社会の繁栄および農村部から「大都市」への人口移動などに伴い、世界は淡水不足の危機に直面しています。ネスレ会長 ピーター・ブラベック・レッツマツは述べています。「この状態が続けば、石油より先に水が枯渇するでしょう。」

私たちのアプローチ

一定の品質の水をいつでも入手できるようにすることは、生活、食糧生産、およびネスレの事業展開に不可欠であり、私たちは世界的な水危機への対応に積極的かつ全面的に協力する必要があります。水資源については「経営に関する諸原則」および環境サステナビリティに関するネスレの方針で言及されています。ネスレの「W.A.T.E.R. 方針」では、水使用量の削減、水の利用効率の向上、排水の水質管理、ネスレとそのサプライチェーンにおける水利用習慣の積極的な改善、ならびに水の保全に対する認識の向上に注目しています。

現在、私たちはこうした方針に対するパフォーマンスの評価に役立つ追加の主要パフォーマンス指標を作成しています。こ

れは 2013 年に発表し、今後 5 年から 10 年の水資源に関するネスレの戦略形成に利用する予定です。

ネスレの環境管理システムでは、ネスレのすべての施設や事業所が水の利用効率を向上させ、関連する環境法規を順守するためのアプローチを明確化しています。

社会政策への関与

ネスレ会長 ピーター・ブラベック・レッツマツは、講演会や公開フォーラムへの参加など、水に関する公開討論会に定期的に参加しています。また、会長は 2012 年 8 月に水に関するブログを立ち上げましたが、私たちはそれが水問題や水問題が食料供給やエネルギー確保に及ぼす影響を解決する方法についての議論を推進する場になることを期待しています。

さらにブラベック会長は、水資源に関して各国が持続可能で包括的な転換を計れるよう事実に基づいた解析的アプローチを紹介し、水資源を守るための協力を促す革新的で中立的な官民団体である 2030 年水資源グループの代表を務めてい



フィリピンのリパにあるネスレの排水処理工場サンプル採取する排水処理技術者のレミュエル・リソンドラ

217

10万人以上の児童が水や衛生設備を利用できるようにする南アジア地域での清潔な飲料水提供プロジェクトの件数

ます。

共同の取り組み

ネスレは「国連グローバル・コンパクト CEO ウォーターマンドेट」を提唱した企業の一社であり、国際的に一貫性のある水利用測定ツール、管理プロセスおよび手順の利用を支持しています。ネスレは 2014 年に完成予定の新しい基準「ISO 14046:ウォーター・フットプリント・原則、条件、ガイドライン」の開発に積極的に参加しています。

アライアンス・フォー・ウォーター・スチュワードシップの参加企業として、ネスレは自主認定プログラムの確立に協力しています。2 年後にこれが完成すれば、その新たな国際ウォーター・スチュワードシップ基準に照らして水管理者と利用者の順守状況が証明できるようになります。

ネスレは 2010 年の開始以来毎年、カーボン・ディスクロージャー・プロジェクトのウォーター・ディスクロージャー報告書の作成に協力しています。ネスレは 2012 年、ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックスの水関連リスクセクションで食品製造企業として最高スコアを獲得しました。

事業運営における水利用

水の利用量削減と利用効率を向上させる戦略は、環境パフォーマンスの向上を推進する上で不可欠な部分です。また、取水量と排水量を削減して水を再利用するプログラムを実行し、節水技術に投資しています。

ネスレの 2012 年の取水量は 1 億 3,800 万 m³、すなわち製品 1 トン当たり 2.9m³ で、2011 年から 9% 減少しています。2012 年を通して、私たちは、メキシコ、スペイン、米国、ウズベキスタンなどのプ



「アグリヴェール」： 現地レベルで 水問題に対処

フランスでは、ネスレウォーターズがミネラルウォーターの人気上位3ブランドの自然水源を保護する環境イニシアチブが成功のうちに20周年を迎えました。ネスレは、ヴォージュ地方にあるヴィッテル、コントレックス、エパーの源泉の品質を保護するため、遡ること1992年に「アグリヴェール」プロジェクトを立ち上げました。フランスの国立農業研究所を始め、歴史研究者、社会学者、経済学者、農学者、動物専門家、水理地質学者など、多くの専門家たちと協力し、懸命な努力を続けることで、フランスのネスレウォーターズはこのエリアを世界最大の民間保護区域のひとつにすることができました。

1万ヘクタールもの保護区域では、農家が人工肥料や殺虫剤の使用を中止し、窒素汚染を起こす作物の栽培を止め土壌の状態を改善する作物循環システムを導入しました。

計画的な植樹や河川の形状改善といった生物多様性をサポートする今後の対応計画と共に、「アグリヴェール」はネスレのみならず多くの組織に対して水質保全の貴重なモデルを示しています。

フランス、ヴィッテル近郊で水サンプルを採取する「アグリヴェール」の社員オリビエ・プティジャンとネスレの水専門家クリストフ・ブルシエ（上）フランス、ヴィッテル近郊の農場を訪問し、地下水汚染を回避する農法を話し合うオリビエ・プティジャン（下）



プロジェクトを含め、さまざまな節水イニシアチブに投資しています。

ネスレの工場では489件の節水プロジェクトが行われ、650万m³を節水しています。

サプライチェーンにおける水利用

水利用量が最も多いのは私たちの生産工程ではなく、農業サプライチェーンであるため、サプライヤーの役割が重要になります。ネスレでは農家などのサプライヤーと協力し、「ネスレ持続可能な農業イニシアチブ (SAIN)」を通して優先的に水の利用効率を上げるべき分野を決め、2012年はオーストラリア、中国、インド、ニカラガア、ベネズエラ、ベトナムなどの国で水利用に特化したプロジェクトを実行しています。私たちは取り組みを効率的に進めるため、水ストレスのある地域で事業を行うサプライチェーンのパートナーを特定しています。また、特に砂糖、パルプおよび紙について、責任ある調達のガイドラインに水資源に関するガイドラインを追加しました。

コミュニティとの関わり

私たちは、近隣のコミュニティと水の供給を共有し、原料の調達と事業展開に水を必要としています。コミュニティと共に水問題の対応に関わることで、ネスレおよび農家、サプライヤー、消費者が居住するコミュニティの相互利益になる形「共通価値の創造」の目標に沿った活動ができます。2007年以降、私たちは国際赤十字・赤新月社連盟、コートジボワール赤十字社と、コートジボワールへの水・下水処理施設の提供と国民10万人を対象にした衛生研修実施のために協働しています。

私たちは、農村部の学校に通う10万人以上の児童が水や衛生設備を利用できるように、南アジア地域の複数の国において清潔な飲料水提供プロジェクトを217件実施しています。

**課題：ネスレの工場以外での
ウォーター・スチュワードシップ
48ページのネスレの方針をご覧ください。**

環境サステナビリティ

ネスレが頼っている天然資源はますます限られたものとなっています。自社の事業展開における環境効率の向上を図るとともにバリューチェーンに沿ったネスレ製品の環境パフォーマンスを継続的に最適化するためにパートナーの協力を促すなど、私たちは現在と未来の世代のために環境保護に協力しています。

私たちのアプローチ

環境サステナビリティに対するネスレのポリシーはネスレのバリューチェーン全体に適用されます。食品・飲料事業について、私たちは、水資源；原料となる農産物；製造と流通；包装の4つの優先分野を特定しました。ネスレはすべての工場において、環境パフォーマンスを向上させ、すべての該等法規の順守を確保し、ネスレの工場がISO 14001:2004の認定を達成できるよう、環境管理システムの要件を規定した国際基準であるISO 14001:2004を全面的に順守したネスレ環境管理システムを活用しています。2012年末までに、418の工場がISO 14001:2004の認定を受けました。

製品ライフサイクルを通じた環境対策

私たちはステークホルダーと協力し、持続可能な方法で管理されている再生可能な資源の利用を優先し、廃棄物ゼロを目



英国のネスレのフェアシェア・パートナーシップは食料不足と食料廃棄の問題に同時に取り組んでいます。

指すことで、天然資源の効率的な活用に取り組んでいます。ネスレの包装資材のエコデザインには、パッケージング・インパクト・クイック・エバリュエーション・ツール (PIQET)、そしてボトル入りウォーターにはISO 14064-1とISO 14040/44認定のグローバル環境フットプリント (GEF) ツールを使用しています。私たちはすべての製品分野についてライフサイクルアセスメント (LCA) を実施し、2012年にはバリューチェーン全体について環境サステナビリティを包括的に評価し、最適化するためのEcodEX (エコデックス) と呼ばれるエコデザインツールの開発を終え、その利用を開始しました。これにより製品開発のごく早い段階でサステナビリティを統合し、事実に基づく判断を行うことが可能になります。

原料

ネスレは原料の農産物をおいしくて栄養価が高く、健康的な食品や飲料に加工します。私たちは、例えば、「ファーマーズ・コネクト」(農家から直接購入するプログラム) や「ネスレサプライヤー規約」(天然資源の使用に関する交渉の余地のない最低条件) など、責任ある調達プログラムを通して、あるいは「ネスレ 持続可能な農業イニシアチブ」(SAIN) などの活動を通じた間接的な方法など、農家やサプライチェーンの他の関係者と協力し、より環境効率の高い方法でこれらの原料を栽培、収穫、加工できるようにしています。2012年は、ブラジル、ケニアなど、46の市場でSAINプロジェクトを実施し、サプライヤー向けに関連トピックに関するワークショップを進めました。

製造

数十年前から、私たちは製造施設の環境効率の向上に取り組んでいます。2002年以降、私たちは取水量を29%削減し、直接温室効果ガスを24%削減しました。その間、生産量は53%増加しています。

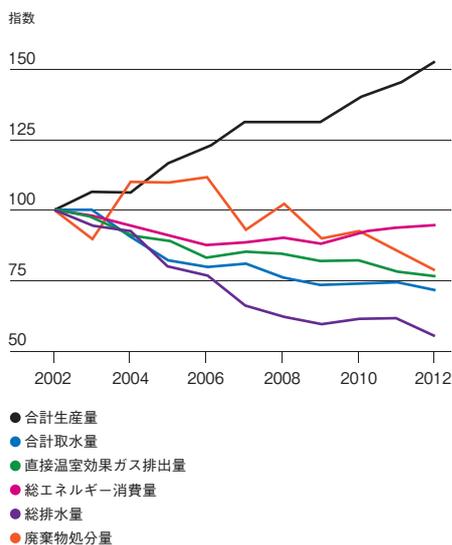
2012年の総エネルギー消費量は90.7ペタジュール、すなわち製品1トン当たり1.9ギガジュールで、2011年から4.7%減少しています。同年、エネルギー目標設定イニシアチブを通して36のプロジェクトを完了し(合計8,200万スイスフランを投資)、約17万3,000トンCO₂eqを削減しました。

現在は私たちの施設で使用されている安全な天然冷却剤のパフォーマンスの向上に取り組むと同時に、安全で、環境に良い冷却システムの研究に注力しています。

包装

包装は食品の劣化を防ぎ、ネスレの品質基準を保証して消費者に情報を提供するために不可欠です。私たちは包装資材の重量と体積を最適化し、商業的に実行可能な限り、リサイクル原料を利用して包装資材を製造しています。この取り組みにより、2012年は梱包資材を47.1キロトン削減することができ、2011年は梱包資材にリサイクル原料を27%使用しました。例えば、ネスレのハム製品Le Bon Paris

2002年から2012年までの生産量に対する資源消費と廃棄物発生量





廃棄物ゼロが 目標



廃棄物ゼロを目指してネスレのヨーグ工場で行われているリサイクルのための廃棄物の分類

天然資源の効率的利用と廃棄物ゼロへの取り組みの結果、2012年末までにネスレの39の工場が廃棄物ゼロを達成

例えば、英国のタトベリ工場は効果的な廃棄物分類システムを導入し、廃棄物戦略において社員・請負契約者に研修を行うことで廃棄物ゼロを

達成しました。廃棄物ゼロの達成により、水やエネルギーの使用量を削減できただけでなく、より多くの空間を確保し、輸送コストを削減することができました。

廃棄物ゼロ戦略については
www.nestle.com/csv/2012/zerowaste
をご覧ください。

や *Tendre Noix* のトレイにはリサイクル材料が 20% 使用されています。

輸送と流通

流通は最高品質の製品を工場から顧客に時間通りに届けるというネスレの事業に不可欠な部分です。私たちは輸送を改善する機会を開拓しつつ、流通ネットワークとルート計画の最適化を継続的に行っています。例えば、ヨーロッパでは陸路から鉄道と船を使った輸送に切り替えたことで、2011年には約 5,300 トンの CO₂eq を削減することができました。また、倉庫内のエネルギー消費量も削減するとともに、評価方法を強化してその適用範囲を拡大しています。

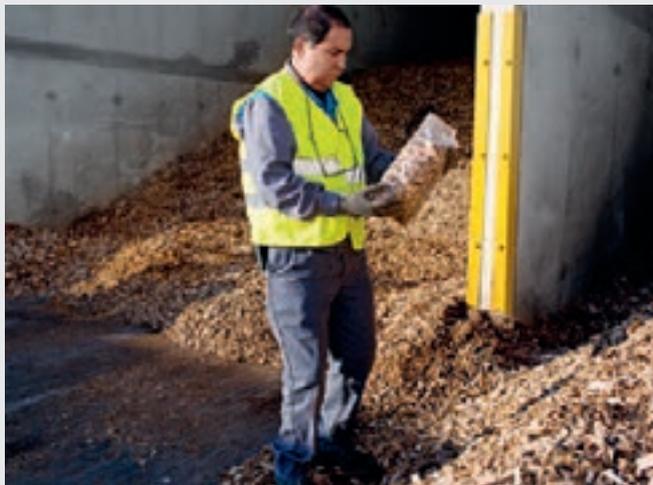
持続可能な消費の推進

私たちは製品や包装資材に関する消費者向けの環境情報を改善するだけでなく、「欧州・持続可能な食品の消費・生産に関するラウンドテーブル」などのフォーラムを通してより良いコミュニケーションツールの開発をサポートしています。ネスカフェライフサイクルアセスメント (LCA) コミュニケーションツールなどの新しいコミュニケーションツールの使用を継続しています。

生物多様性

ネスレの責任ある調達ガイドライン (RSG) には、生物多様性、森林の転用および破壊的な収穫、水資源管理などに関する保護対策が盛り込まれています。こうしたトピックは今後の方針の一部として本報告書末尾の表に記載されています。詳細は www.nestle.com/csv をご覧ください。

気候変動



フランス、シャルランジュで燃料源としてのテストのため、持続可能な形で得られた木屑のサンプルを収集

エネルギーの利用効率を高め、再生可能なエネルギーに切り替えることで、2012年、生産量は5.5%増加したにも関わらず、直接温室効果ガス (GHG) の放出は370万トンCO₂eqまで削減しました。2012年、ネスレはカーボン・ディスクロージャー・プロジェクト・インベスタープログラムにおいて、パフォーマン

スと情報開示において1位となり、ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックスの気候戦略セクションで食品製造企業として最高スコアを獲得しました。

課題：気候変動

[48ページのネスレの方針をご覧ください。](#)

コンプライアンスと人権

ネスレでは、事業を行うそれぞれの国の法律と規制、ならびに国際基準の全面的な順守を目指しています。最終的に、ネスレの「共通価値の創造」活動の絶対的な基盤になるのがコンプライアンスです。コンプライアンスは私たちが社会と関わる上での必要条件です。

何より、信頼を構築するために、私たちは自らの方針を順守しなければなりません。国連グローバル・コンパクトの10原則を含む国際的に認証されている基準、条約およびイニシアチブに基づいた「ネスレの経営に関する諸原則 (NCBP)」は、ネスレのすべてのポリシー、基準および規制の基本です。

コンプライアンスのモニタリング

私たちは、社内監査だけでなく、CARE監査プログラムを通して「ネスレの経営に関する諸原則」の順守および人権に対する国際条約の支持の状況をモニターしています。2012年、独立外部機関が100以上の施設で、CARE (人材、職場の衛生と安全、環境とビジネスインテグリティの

コンプライアンスアセスメント) 監査を行いました。重大または重要なコンプライアンス違反が5件指摘され、結果として是正措置が取られました。

責任ある広告とマーケティング

ネスレは12歳未満の子ども向けのマーケティングコミュニケーションと広告に関する国際食品・飲料アライアンス (IFBA) への参加企業として、子どもに対する責任ある広告とマーケティングを支持しています。

また、子ども向けの宣伝方法を改善するという主要食品・飲料企業の自主的イニシアチブ、EU誓約を支持しています。2012年の結果では、第三者のモニタリング報告において、子ども向けのプログラムでEU誓約を支持する企業の基準に満たない製品の広告が73%減少したことが判明しました。2012年の私たちのEU誓約のコンプライアンス率は、テレビ広告で98.5%、印刷物とオンライン広告で100%でした。また、一部の国では既存のグローバル方針を補い、国内市場のニ

18103

2012年にネスレの人権に関するオンライン研修ツールを修了した社員の数

ズを満たす独自の誓約を適用しています。

2012年を通して、私たちは母乳代替品の販売に関する世界保健機関の規約に基づいたネスレのポリシーに対するネスレの小売・流通のパートナー企業のコンプライアンス向上を目指し、契約にコンプライアンス条項を組み入れ、流通に関する助言と研修の両方を提供してきました。私たちは薬局でのネスレ製品の陳列方法に関するガイダンスを強化し、スイス、ヴェヴェーにある本社、ならびにウクライナ、アルゼンチン、モロッコ、ラオスといったリスクの高い国々での事業展開への社外監査を前向きに受け入れてきました。何年もかけて改良されたWHO規約のコンプライアンスの管理システムの結果として、私たちはFTSE4Good (フィッチフォーグッド) 社会的責任投資株価指標に乳児用調製粉乳メーカーとして唯一登録されています。

製品の安全性と品質

「ネスレ品質管理システム (NQMS)」は、品質と食品の安全に対して私たちがその責務を全うするためのものです。2012年のNQMSの世界的な順守率は93%でした。私たちは原料と製品中の潜在的な懸念の原因となりうる成分の削減に自主的に取り組んでいます。また、ヨーロッパ全体で農家やサプライヤーと「グッドプラクティス」イニシアチブを実践しています。

腐敗防止

昨年、ネスレやその社員に対する公的な腐敗申し立てはありませんでした。私たちは広範囲にわたる研修を行っており、ネスレの社員は通告システムを通して腐敗や倫理に関わる懸念を提起することができます。



フィリピンでWHO規約の順守について研修を受ける小売業者



児童労働の問題解決に向けた協働

ネスレサプライヤー規約について絵入りの説明書を使ってコートジボワールのカカオ農家に説明するネスレの農学者フレデリック・オーラ

2011年、ネスレは非営利で、さまざまなステークホルダーの協力組織である公正労働協会（FLA）と、食品企業としては初めて協働しました。私たちは、まずトルコのヘーゼルナッツ生産に焦点を置き、ネスレのサプライチェーンにおける児童労働のリスクと発生率の調査においてFLAにサポートを求めました。今年、私たちはその提言に基づいて行動計画を開始しました。これにより2014年までにトルコのヘーゼルナッツの100%を透明性の高いサプライチェーンから調達できるようになります。2012年、FLA

は、ネスレがカカオの大半を調達しているコートジボワールでのカカオ供給について独自の評価を実施しました。農家の長期的な生計を悪化させることなく農業サプライチェーンにおける児童労働に対するネスレの新しい方針を実践できるように、現在、私たちは複数のステークホルダーと共に持続可能な解決策を開発しています。

[公正労働協会とネスレの協力の詳細は www.nestle.com/csv/2012/fla をご覧ください。](http://www.nestle.com/csv/2012/fla)

ネスレと人権

「ネスレの経営に関する諸原則」には国連グローバル・コンパクト10原則が組み込まれ、私たちは企業と人権に関する国連フレームワークと指導原則にまとめられた「企業の人権尊重責任」に準じて行動しています。また、「世界人権宣言」ならびに国際労働機関（ILO）の基本条約を支持しています。

私たちは、広範囲のモニタリングシステムを利用して事業のあらゆる分野で人権

を考慮し、この問題について明確な報告を行います。2012年、私たちは農業サプライチェーンにおける児童労働に対するネスレの方針を導入するなどの実例を示すことでこの取り組みの先頭に立つ決意をし、社会的権利や人権に焦点を置いた農業・地域開発の枠組みを作成しました。

ステークホルダーを巻き込んだ人権問題への取り組み

私たちは国連グローバル・コンパクトのLEADメンバーとして、人権に関する作業

部会やサプライチェーン助言グループを通して事業と人権に対する広範な議論を行い、人権に関する幅広い対話に参加してきました。2012年、約18,103名の社員がネスレの人権に関するオンライン研修ツールを修了し、人権に関する研修の参加者は、55カ国で合計約27,922人に達しました。

リスクと影響の評価

私たちは今年、ロシア、ウズベキスタン、カザフスタンでデンマーク人権研究所と共に人権影響評価を実施し、全国レベルでの理解を深めることができました。ネスレが正式な提携企業となっている公正労働協会がコートジボワールで行った影響評価では、ネスレのカカオサプライチェーンにおける潜在的な人権の問題も明らかになりました。

安全と健康

安全と健康はネスレの最優先課題です。2011年から2012年にかけて、私たちは新しい「ロードマップ・トワード・エクセレンス」を作成し、健康と安全に関する戦略を強化しました。2013年もこの戦略の実行を継続します。

2012年、私たちは報告対象になる総負傷率・疾病率（TRIFr）を5%改善しました。ただし、休業を伴う負傷・疾病率（LTIFr）は悪化し、2011年より6%高くなりました。2012年はネスレで勤務中に5名が亡くなりました（2011年は18名）。ご冥福を祈るとともに、特に安全運転プログラムやキャピタルプロジェクト管理プロセスの改善を通して、今後同様の事が起こらないよう最善を尽くします。労働条件のその他の側面については他のプログラムで対応しています。

[課題：サプライチェーンにおける児童労働 48ページのネスレの方針をご覧ください。](#)

ステークホルダーと協働して関与すること

日常業務の一環として定期的に対話があるステークホルダー、ネスレの活動に影響を受けるステークホルダーなど、ネスレは幅広いステークホルダーのネットワークを持っています。消費者、顧客、サプライヤーから投資家、社員、政府および多国籍団体、非政府組織 (NGO)、市民団体、学術機関に至るまで、ステークホルダーはすべて、**私たちの継続的な事業の成功と「共通価値を創造する」ために重要です。彼らとの生産的かつ率直で協力的な関係がなければ、私たちは生き残ることも繁栄することもできません。**

ネスレが事業展開している国や地域で日々行われている対話のほかに、私たちはステークホルダーと正式なイベントや協議を数多く開催しています。これらはネスレのステークホルダーとの関わりにおいて重要な部分であり、年1回の「共通価値の創造フォーラム」、2回のステークホルダー会議、オンラインでの無記名によるステークホルダーコミュニティ調査が含まれます。

インド商工会議所連盟 (FICCI) と共同開催した 2012 年の「共通価値の創造

フォーラム」には、すべてのステークホルダーグループからフォーラム会場に 400 名、オンラインで数千名の代表者が参加しました。フォーラムにはオピニオンリーダーたちが出席し、特に南アジアにおける社会、栄養、水資源および農業・地域開発における企業の役割といった基本的な問題が話し合われました。南アジアなどから参加したオピニオンリーダーたちは、長期にわたって持続可能な経済発展を推進するために世界の政府が民間団体や企業とどのように協力すべきかを議論しました。すべてのセッションはウェブキャストされ、ネスレの「共通価値の創造フォーラム」のウェブページ www.nestle.com/csvforum2012 でいつでもご覧いただけます。

さらに、ロンドンとナイロビではもっと焦点を絞ったステークホルダー会議が行われました。サステナビリティ社が独自に主催したこの会議には、多国籍団体、NGO、政府、農業団体、学術機関から 60 を超える外部ステークホルダーが出席しました。このプロセスはいつも示唆に富んでおり、昨年の会議も例外ではありません。

んでした。特に、ネスレのステークホルダーがネスレに対して以下を要望していることがわかりました。

- ネスレの知識、規模およびマーケティング力を活用して消費者に好影響を与え、解決方法を向上させる
- イノベーションや改革を推進するために競うべき分野と規模を拡大するために協力すべき分野を検証する
- 「共通価値の創造」が注力する他の分野についてもっと意欲的な目標を設定する
- 目標達成への取り組みの透明性を高め、私たちが直面している問題についても開示する
- 特に栄養問題について、政府と密接に協力する

会議の内容は上級経営陣に報告され、2013 年の戦略と対応に盛り込まれる予定です。これらはすでに農業・地域開発に関する新しい方針に盛り込まれています（「農業・地域開発の枠組み」の一部、34 ページ参照）。会議のフィードバックは公正労働協会との提携のきっかけにもなりました。



ニューデリーで行われた2012年の「ネスレ共通価値の創造フォーラム」

重要課題

マテリアリティ(重要性)とは、簡単に言うと、**社外のステークホルダーが最も懸念する課題に照らし合わせて、ネスレにとってリスク要因となる、あるいはネスレに機会を提示する課題の特定をすること、となります。**

ネスレは数年前からサステナビリティ社と協力して、ネスレとそのステークホルダーにとって最も重要な問題に優先的に取り組

んできました。今年的重要案件の分類で採用された厳格なアプローチには、オピニオンリーダーの信望調査、専門家と消費者に対するサステナビリティ協同調査、ステークホルダー会議のフィードバック、広範囲のメディア調査、事業に対する影響の社内調査、ネスレの企業リスクマップが含まれます。

以下のマテリアリティ・マトリックスに「社

会とネスレ、『共通価値の創造』でネスレにとって最も重要な課題を示しました。

バイオテクノロジー、ナノテクノロジー、地権と買収、経営陣の報酬、公正な税制および保障など、主なステークホルダーのフィードバックに基づいて重要案件の分類にいくつかの新しい問題が追加されています。

2012年重要案件の分類

<p>ステークホルダーの懸念が増加↑</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ビジネスインテグリティ / 腐敗防止 ● 乳児用調製粉乳マーケティング ● 公共政策、支持およびロビー活動 ● 子ども向けの責任あるマーケティング ● 気候変動の緩和 ● 森林破壊 ● 栄養に関する知識とコミュニケーション ● リスクの高い国々における社内の人権 	<ul style="list-style-type: none"> ● 製品の安全性 ● 包装 ● 食糧確保 ● 栄養過剰 / 低栄養に対応するための製品の開発とリニューアル ● 水の利用と保全 ● 児童労働 ● 責任ある調達 ● サプライヤーの人権 ● 労使関係
<ul style="list-style-type: none"> ● 経営陣の報酬* ● 地権 / 買収* 	<ul style="list-style-type: none"> ● 消費者のプライバシー ● 公正な税制* ● 大気汚染と水質汚染* ● 生物多様性 ● バイオ燃料 ● 気候変動への適応 ● 食料廃棄 ● 製品のライフサイクルの影響 ● 製造時廃棄物と回収 ● 動物福祉 	<ul style="list-style-type: none"> ● 企業統治、透明性および説明責任 ● 総エネルギー消費 ● コミュニティとの関わり ● 国内の経済発展 ● 持続可能な農家の生活
<ul style="list-style-type: none"> ● バイオテクノロジー* ● ナノテクノロジー* 	<ul style="list-style-type: none"> ● 土壌肥沃度 ● 輸送と流通 ● 多様性 ● リスクの低い国々における社内の人権 	<ul style="list-style-type: none"> ● 社員の福利厚生、報酬、動機づけ、雇用継続 ● 社員との関わり ● 社員の研修と学習 ● 健康と安全 ● 職場のウェルネス

現在のネスレに対する影響または影響の拡大 →

- コンプライアンス
 - 環境サステナビリティ
 - 栄養
 - 水資源
 - 農業・地域開発
 - 責任ある調達
 - 私たちの人材
- * 2012年の新しい課題であることを示す



2人のための健康的な食事：ネスレの「Nutrir」ヘルシーキッズプログラムに参加しているエクアドル・イバラのエケラ・アナ・ルイザ・レオロ学校のケイラとキシャ・ザレス・コンゴ・デルガドの双子

ネスレの責務の達成

前の2つのセクションでは、ネスレが世界をリードする栄養・健康・ウェルネス企業となり、事業活動を行っている地域の環境を保護しながら栄養、水資源および農業・地域開発において共通価値を創造するために、どのような取り組みを行っているか説明しています。この目的達成をサポートするために、本報告書の最後のセクションで今後の主な方針を示します。私たちは、いくつかの理由から皆さまへの方針説明を重要と考えています。

ネスレのポリシーや、その年あるいは中長期的な方針を示すことで、関係のあるすべての分野に焦点を置いた体系的な展開が実施しやすくなります。また、方針を示すことで進捗状況を評価できます。さらに最も重要なこととしてステークホルダーにも進捗状況を提供できます。

また、方針によってステークホルダーに私たちの意図を示し、成果と問題点の両方についてステークホルダーが私たちに説明を求める手段を提供することができます。私たちは、こうした透明性を「共通価値の創造」、環境サステナビリティおよびコンプライアンスにおけるパフォーマンスの継続的な向上に向けた取り組みをさらに強化する実際的なインセンティブとなることから歓迎しています。ただし、私たちにとって最も重要なことはパフォーマンスの継続的な向

上であり、実際のパフォーマンスの代わりになるものとして方針を利用するつもりはありません。

現時点で、私たちは、主に企業ポリシーという形でグループレベルのさまざまな短期的および長期的方針を示しており、その多くについて主要なパフォーマンス指標を開発しています。これらは表紙の裏に一覧表として記載されています。ネスレのすべての方針の基本は「ネスレの経営に関する諸原則」です。「共通価値の創造」に関する方針はステークホルダーと「共通価値の創造」顧問委員会と協議の上、継続的な調整が行われます。

特に栄養については、消費者の生活の質を高める方針に真剣に取り組んでいます。私たちはこれまでの実績を誇りに思っていますが、今後についてさらに大きな目標を立て、生活の質を向上するための貢献を加速するべくさまざまな分野で取り組みを行っています。今後18カ月で詳細を示しますので、ご期待ください。社会におけるネスレのあらゆる分野において、私たちは継続的な改善に取り組み、毎年そのパフォーマンスを報告する予定です。「共通価値の創造」、環境サステナビリティおよびコンプライアンスに対するパフォーマンスについて最新情報を提供し、その年の関連するケーススタディをwww.nestle.com/csvで報告します。

トピック	対策	進捗状況	今後
栄養			
ネスレ製品の栄養プロファイルの向上			
小児用に作られた栄養学的に健全な製品の提供	「ネスレ栄養プロファイリングシステム」/「ネスレ栄養基盤」の基準、およびネスレ チルドレンズヘルシーグロース戦略(14ページ参照)。	2012 小児用製品の89%(対売上高)が子ども用の「ネスレ栄養基盤」のすべての基準を順守	2014 小児用製品の100%(対売上高)が子ども用の「ネスレ栄養基盤」のすべての基準を順守
微量栄養素の強化による低栄養のリスク削減をサポート	ネスレ微量栄養素強化ポリシー(2000年、2011年更新)	2012 世界全体で年間1,500億サービング以上の微量栄養素強化食を販売	2016 子どもと出産年齢の女性に特に注目し、世界で2,000億サービングを販売
	ネスレバイオフォーティフィケーションプログラム:必須ビタミンとミネラルをバイオフォーティフィケーションした従来種の主要作物を調達することにより、途上国の地元住民による栽培と消費を推進	2012 アビジャン(コートジボワール)とシンガポールの研究開発部門が亜鉛/鉄/プロビタミンAをバイオフォーティフィケーションした従来種の主要作物8種を開発	2015 直接強化を補うものとして主要な市場でバイオフォーティフィケーション製品を発売
製品中の食塩を削減	食塩に関するネスレのポリシー(2005年、2012年更新)	2012 子ども用製品の90%(対売上高)が「ネスレ栄養基盤」のナトリウム基準を順守	2014 子ども用製品の100%(対売上高)が「ネスレ栄養基盤」のナトリウム基準を順守
		2011 2005年よりネスレの調理済みシリアルと朝食用シリアルに含まれる食塩を12,500トン削減	2015 その他関連製品においてさらに10%の削減
製品中の糖類を削減	糖類に関するネスレのポリシー(2007年)	2012 子ども用製品の90%(対売上高)が「ネスレ栄養基盤」の糖類の基準を順守	2014 子ども用製品の100%(対売上高)が「ネスレ栄養基盤」の糖類の基準を順守
		2011 2003年と比較して朝食用シリアル全体で9,000トンの糖類を削減	2015 子ども向けまたは10代向け朝食用シリアルの1サービングにおいて糖類の総量を9g削減
製品中の飽和脂肪酸を削減	飽和脂肪酸に関するネスレのポリシー(2009年)	2012 子ども用製品の90%(対売上高)が「ネスレ栄養基盤」の飽和脂肪酸基準を順守	2014 子ども用製品の100%(対売上高)が「ネスレ栄養基盤」の飽和脂肪酸基準を順守
製品中のトランス脂肪酸を削減	トランス脂肪酸に関するネスレのポリシー(2003年)	2012 既存製品全体の99%がトランス脂肪酸に関するネスレのポリシーを順守	2013+ 新規に買収した事業を含め、すべての製品にトランス脂肪酸に関するネスレのポリシーを適用
健康的な自宅での調理を含め、全粒穀物、野菜の消費量増加をサポート	朝食用シリアルへの全粒穀物の追加 ネスレが家庭での調理や健康的な食事バランスを教えることで野菜の消費を推進	2012 パッケージに緑のパナーがついた朝食用シリアルは1サービング当たり8g以上の全粒穀物を含む	2015 子ども用または10代向けの朝食用シリアルのサービングで他のどの材料よりも全粒穀物の割合を高くする
		2012 8カ国でマギー料理教室を実施	2015 30カ国でマギー料理教室を実施
		2012 世界で販売されているマギー製品の65%が家庭での調理と野菜を含む食事を奨励	2015 世界で販売されているマギー製品の90%が家庭での調理と野菜を含む食事を奨励

トピック	対策	進捗状況	今後
情報			
ネスレ製品のすべてのラベルに栄養情報と助言を記載	「ニュートリショナル コンパス」の表示に対するネスレの基準 (2005年、2011年更新)	2012 世界で販売されているすべての関連製品の96.8%(対売上高)が「ニュートリショナル コンパス」表示製品	2016 パッケージのQRコードを通して詳しい製品情報と栄養に関する助言を提供
	栄養/GDA(1日のカロリーガイド表示)の表示に対するネスレの基準 (2006年、2013年更新)	2012 世界で販売されているすべての関連製品の46.3%(対売上高)がパッケージの前面にGDAを表示	2016 世界で販売されているすべての関連製品の100%(対売上高)がパッケージの前面にGDAを表示 2016 規制で認められれば子ども用のすべての製品に子ども用の基準値に基づいたGDAを導入
サービス			
摂取量の指針を提示	「ネスレ・ポーションガイダンス・イニシアチブ」:できるだけ見えずぐわかる適切な摂取量と頻度を記載 (2011年開始)	2012 262億スイスフラン 具体的なサービング量を表示した製品の売上高	2015 100%の子どもや家族向けの製品に1サービング量を表示、2倍以上の販売量
健康的な食生活およびライフスタイル/運動の推進	「ネスレ ヘルシーキッズプログラム」:適切なステークホルダーと協力して児童に健康的な食生活と活動的なライフスタイルを教育 (2009年開始)	2012 64カ国で行われているプログラムに540万人の子どもたちが参加	2015 IAAF(国際陸上競技連盟)のキッズ・アスレチックスの実施に合わせて80カ国でプログラムを実施
健康的な水分補給の推進	「ネスレ ヘルシー・ハイドレーション・プログラム」:子どもに焦点を置き、バランスの取れた健康的な食生活の一部として十分な水分摂取を推進 (2010年開始)	2012 飲水習慣/気候が異なる5カ国で子どもの水分補給の状態を調査し、科学論文を準備	2014 世界中の医療専門家、介護者、両親を対象にした事実に基づく健康的な水分補給の認識を向上するプログラム
農業・地域開発と責任ある調達			
農業・地域開発の枠組みの実施	農家、農場労働者、コミュニティをカバする枠組みの開発	枠組の設置と方針文書の発行 (2012年12月)	2015年までに著しい社会的ニーズを示しているネスレの事業に重要な21の新興市場で基礎評価を実施
「ネスレ カカオプラン」の実施	農家が収益性のある経営を行えるようにすることで、ネスレのカカオについて持続可能なサプライチェーンを開発しながら児童労働を排除する	2012 27,000軒以上の農家に研修を実施;110万本の苗木を配布;公正労働協会の報告書;13の学校を建築または修繕;「カカオ プラン」のカカオ46,000トン以上	2013 6万トンのカカオ;8つの認定協同組合;児童労働のモニタリングとさらに6つの協同組合に改善申し入れ;10の学校を建築または修繕;少なくとも2万の農家に研修を実施 2015 10万トンのココア;WCF(世界カカオ基金)プログラム「4年で40校」を完了
「ネスカフェ プラン」の実施	持続可能な消費、生産および製造に注力 コーヒーコミュニティの共通規約(4C)の会員資格 レインフォレスト・アライアンスとの提携	2012 ファーマー・コネクトから133,000トン以上を調達 コーヒーの苗木2,250万本を配布し、48,000軒以上の農家に研修を実施	2015 ファーマー・コネクトから18万トン調達、4C(コーヒーコミュニティの共通規約)を基本とするサステナビリティ基準を100%順守 2020 9万トンのSAIN準拠コーヒーの調達と2億2,000万本のコーヒー苗木の配布
責任ある調達およびトレーサビリティの実施	ネスレサプライヤー規約 ネスレの責任ある調達とトレーサビリティプログラム 第三者との提携	第一線のサプライヤーに2261件の監査 パーム油、紙、砂糖、大豆、バニラ、シーフードに関する責任ある調達のガイドライン TFT(フォレストトラスト)、コンサベーション・インターナショナル、プロフォレストとの提携	2015 1万件の責任ある調達の監査を完了 2013 公約より2年早くRSPO(持続可能なパーム油のための円卓会議)認定の持続可能なパーム油の割合100%を達成

トピック	対策	進捗状況	今後
水資源			
水の利用効率の向上	ネスレの持続可能な環境方針	2002年から2012年で取水量を29%削減	2015年までに製品1トン当たりの直接取水量を2005年と比較して40%削減
ネスレの工場以外でのウォーター・スチュワードシップの向上	ネスレの水資源に関する取組(2006年) ネスレ環境マネジメントシステム	2002年から2012年で排水量を45%削減	2013年に改正済みの方針を発表予定
環境サステナビリティ			
資源の利用効率の向上	ネスレの持続可能な環境方針 ネスレ環境マネジメントシステム ライフサイクルアセスメント(LCA)	2012 39工場で廃棄物量ゼロ エコデザインツールの運用開始	2015年までに、ネスレの工場の10%を廃棄物ゼロにする 2015年までに製品1トン当たりのエネルギー消費量を2005年と比較して25%削減
ネスレ製品のパッケージが環境に与える影響を改善	ネスレの持続可能な環境方針 包材環境負荷測定簡易ツール(PIQET)	2012年は重量で47.1キロトンの包装資材を削減 4,000件のプロジェクトと13,000件以上のシナリオを評価	EcodEX(エコデックス:国際環境規格に準拠した製品のエコデザインのためのソフトウェア)を使用した、より包括的なバリューチェーンアプローチへの移行
製品が環境に与える影響の評価と最適化	ネスレの持続可能な環境方針 バリューチェーン全体をカバーする新しいエコデザインツールEcodEX(エコデックス:国際環境規格に準拠した製品のエコデザインのためのソフトウェア)	主要な製品カテゴリーにおいてLCA(ライフサイクルアセスメント)を完了 新製品の開発における体系的なサステナビリティ評価 初のネスレ・サステナビリティ・カテゴリー・プロフィール(SCP)の確立と通知 EcodEXを初めて実施 食糧データベースの開発	2013年までにすべての製品テクノロジーセンターでEcodEXを実施
環境変化リーダーシップの提供	ネスレの持続可能な環境方針 気候変動に対する方針 森林破壊と森の管理に関する方針(2011年)	2002年から2012年で生産量は53%増加しながら直接温室効果ガス排出量を24%削減 2012年末までに再生可能エネルギー使用割合が9.3% 酪農業の農法を改善 カーボン・ディスクロージャ・プロジェクト2012においてすべてのセクターの総合でトップの企業	2015年までに製品1トン当たりの直接温室効果ガス排出量を2005年と比較して35%削減し、温室効果ガス排出量の絶対量を削減
自然資本の保全	パーム油に関する責任ある調達ガイドライン(2010年) 工場の立地と生物多様性の評価(2011年)	天然資本に対する方針(2012年) 生物多様性の主要な問題の評価とネスレの対応(2012年) 砂糖、大豆、紙、バニラ、シーフードに関する責任ある調達のガイドライン(2012年) 酪農業に対してRISE(反応誘導型持続可能性評価)ツールを実施	ミルク、コーヒー、カカオの責任ある調達ガイドライン 進捗状況の年次報告
森林破壊の根絶	森林破壊と森の管理に関する方針(2011年)	林業関係の原材料に関する責任ある調達のガイドライン(2012年) フォレスト・フットプリント・ディスクロージャ2012においてトップの食品企業	さらなる責任ある調達ガイドライン(ミルク、コーヒー、カカオ)の実施 進捗状況の年次報告
人権とコンプライアンス			
人権への影響の評価と対応	ネスレの経営に関する諸原則 国連グローバル・コンパクトの原則 デンマーク人権研究所(DIHR)との提携	2010~2012年 7件の人権に関する評価を完了 2011~2012年 人権に関する研修を受けた社員 27,922名	2015 FTSE4Good(フィッチフォーグッド)企業として重視する国すべてをカバーし、社員に研修を行う
児童労働の排除	公正労働協会の会員	カカオ、ヘーゼルナッツ、バニラに関する行動計画の開発と実施	原料と原産国を拡大して実施

解釈に疑問または相違が生じた場合、
英語版がフランス語、ドイツ語
およびスペイン語版に優先します。

イタリック体で表記されたブランドは
ネスレグループの登録商標です。

写真

Nana Kofi Acquah,
Markus Bühler-Rasom,
William Daniels/Panos Pictures,
Sanjit Das/Panos Pictures,
Sam Faulkner/NB Pictures,
Harmen Hoogland,
Evan Hurd, Ivan Kashinsky,
Gilles Leimdorfer/Interlinks Image,
Karen Robinson, Daryl Visscher



環境に配慮するため有害液を排出しない
「水なし印刷」方式を採用しています。



インキには、石油系溶剤成分を1%未満に
おさえたノンVOCインキを使用しています。

制作/ネスレ日本株式会社
マーケティング&コミュニケーションズ本部
<http://nestle.co.jp>
公式facebook: <https://www.facebook.com/Nestle.Japan>

2013年8月

日本での取り組み

“社会との関わりの中で事業への「機会」を得るだけでなく、課題解決に向けた「責任」も果たさなければならない”、これがネスレの社会における立場です。この考えに立ち、ネスレでは世界各国と同様に日本においてもさまざまな分野で社会とネスレ、その双方にとっての価値を創造するネスレの進化したCSR、「共通価値の創造」(Creating Shared Value = CSV)に取り組んでいます。

従来の「共通価値の創造」報告書から2012年は“Nestlé in Society(社会とネスレ)報告書：「共通価値の創造」と責務の履行”と名前が変わりました。つまり、CSVの前提になるコンプライアンスや持続可能性への取り組みを「社会とネスレ」という概念でとらえ、さらにこれら前提の取り組みにおける責務(約束)についてもより具体的な施策に落とし込む形になっています。ここでは「共通価値の創造」やその基盤分野(コンプライアンス、持続可能性への取り組み)も含めた幅広い事例を、より健康的な食生活のお手伝いをする「栄養への取り組み」、工場での取り組みを主とする「水資源と環境保全」、社員に焦点を当てた「ネスレの人材」および「社会貢献・ボランティア」という切り口でご紹介するとともに、「東日本大震災への継続的支援」やネスレが現在取り組みを進めている「社会に対する新価値創造をもたらすビジネスの考え方」をご紹介させていただきます。



ネスレ ヘルシーキッズ プログラム



目次

N-1	日本での取り組み
N-3	東日本大震災被災地への継続的な支援
N-4	社会に対する価値創造
N-6	栄養

N-11	水資源環境の保全
N-14	ネスレの人材
N-16	社会貢献・ボランティア活動

日本での取り組み

トップからのメッセージ



ネスレ日本株式会社
代表取締役社長 兼 CEO
高岡 浩三

ネスレのスイスでの創業の原点は、栄養不足による乳幼児の死亡率の高さに心を痛めた創業者アンリ・ネスレが開発した乳児用乳製品です。1866年の創業以来、およそ150年間にわたって社会のために価値を創造し、それによって株主にとっての価値も創造するというネスレの基本的な戦略は変わっていません。

社員が順守すべき基本的な価値観や諸原則をまとめた「ネスレの経営に関する諸原則」の中には、“[共通価値の創造 (Creating Shared Value = CSV)] が事業展開の基本である”ことが明記されています。日々の業務の中で関わるさまざまなステークホルダーの皆さまにとっての価値を創造するためにできることを考え実践することが、社員一人ひとりの責務であり誇りでもあります。

1913年に日本で創業したネスレ日本は、おかげさまで2013年4月に100周年を迎えることができました。日本での私たちの使命は、グローバル企業としての強みを最大限に生かしつつ、日本の消費者の皆さまにほっとするひとときと笑顔をお届けするとともに、より健康的な食生活のお手伝いをすることです。今後もその使命を果たし、またさらなる価値をご提供することに注力してまいります。そして日本のステークホルダー一人おひとりにとって、最も信頼され、尊敬される企業であるために全力を尽くしてまいります。

東日本大震災被災地への継続的な支援



自然のなかで子どもたちが思いっきり遊べる場 福島県南相馬市「高見公園」

1995年の阪神・淡路大震災で、神戸市内の本社ビルが倒壊する被害を受け、全国の皆さまから数多くのご支援をいただいた経験を持つネスレ日本では、2011年3月11日東北地方を襲った東日本大震災で大きなダメージを受けた被災地に対して、発生直後から一日も早い復旧・復興に貢献するべく、食品飲料企業としてできることに取り組んでまいりました。2012年以降も事業を通じての協力も含めて継続的に復興への貢献を行っています。

三陸鉄道を支援する

「キット、ずっとプロジェクト」

～三陸に笑顔のサクラを咲かせよう～

「キット、願いかなう。」をブランドコンセプトとする「キットカット」は、東日本大震災で甚大な被害を受けた三陸鉄道（岩手県）の復興を支援する「キット、ずっとプロジェクト」を2012年3月より開始しました。同月には1袋あたり20円の支援金が価格に含まれた「ネスレ キットカット ミニ ワールドパラエティ」を発売。90万袋を販売して1,800万円の支援金が集まり、三陸鉄道株式会社に贈呈されました。2013年4月に一部区間の運行を再開した三陸鉄道南

リアス線には、サクラで彩ったラッピング列車「キット、ずっと2号」がお目見えしました。再開の起点となった吉浜駅では駅舎をサクラアートで彩り、歩道橋も希望を架けるサクラでラッピングされました。また、Facebookを活用して世界から笑顔の応援フォトを集めました。2014年の全線開通に向けてこれからも「ネスレ日本」は沿線地域を応援します。

「ネスカフェ エコ&システムパックで東北を応援！」キャンペーン

～被災地に「自然と人のふれあい」が感じられる広場が完成～

2012年3月から4月、ネスレ日本は、凸版印刷株式会社と共同で「ネスカフェ エコ&システムパックで東北を応援！」を実施。これは被災地東北の復興と持続可能な発展のため、「ネスカフェ エコ&システムパック」（詰め替え用および家庭用コーヒーマシン「ネスカフェ ゴールドブレンドバリスタ」用ソリュブルコーヒー）1本につき10円を宮城・岩手・福島の支援活動に役立てようというものでした。

集まった支援金は約3,600万円。支援活動のアイデアをネスレ会員さまのコミュ

ニティーサイト「県人こみゆ」で募集した結果、「『自然と人のふれあい』が感じられる広場づくり」という支援策が採択され、2013年春までに、選定された全3地区（岩手県釜石市只越地区、宮城県石巻市開成地区、福島県南相馬市原町地区）に広場がオープンしました。広場づくりにあたっては、「ネスカフェ エコ&システムパックで東北を応援！」キャンペーンだけではなく、他企業の協賛もいただきました。多くの遊具が設置され、子どもからお年寄りまで喜んでいただける公園を完成することができました。

コミュニティカフェ「HANA 荘」への協力

ネスレの関連企業である日本ロレアル株式会社が地域の皆さまの交流を図るために石巻市に建設したコミュニティカフェ「HANA 荘」では、集う方々がくつろぎのコーヒータイムを楽しんでいただけるように「ネスカフェ ゴールドブレンド バリスタ」やペットボトルコーヒー、「キットカット」製品なども提供しています。



サクラアートで彩られた吉浜駅

社会に対する価値創造

変化を続ける日本社会 — 日々新たな課題が生まれています。私たちはイノベーションでそれらの課題に挑戦し、事業活動を通じて解決に貢献したいと願っています。

「ネスカフェ アンバサダー」でオフィスを楽しく！

日本には530万もの小規模オフィス（従業員20人以下）がありますが、その大半では飲料自動販売機などは設置されていません。オフィスで働く方々は、各自でコーヒーなどを買って飲まれていることが多いようです。また、昨今企業の節電、コスト削減のため給湯スペースや湯沸しポットなどが撤去されるなど、オフィスでのコーヒータイムを取り巻く環境は厳しくなりつつあります。そんな中、オフィスで手軽にコーヒーを飲むマシンとして、また同僚と一緒にコーヒーを淹れながら会話が弾む、ひとつのコミュニケーションツールとして「ネスカフェ ゴールドブレンド バリスタ」がオフィスに浸透し始めています。



「ネスカフェ ゴールドブレンド バリスタ」を無償で提供



「ネスレ アンバサダー」応募数は8万件を超えています
<2013年5月末時点>

このような社会的な動きに合わせて、「オフィスをもっと楽しく」をコンセプトに、「ネスカフェ ゴールドブレンド バリスタ」がオフィスで無償で使用できる「ネスカフェ アンバサダー」の募集を開始しました。「ネスカフェ アンバサダー」から毎日facebookに投稿されるオフィスの写真には、働く人々の笑顔が溢れています。1杯の「ネスカフェ」を通じて日本中のオフィスに今笑顔が広がっています。

今後とも「ネスカフェ アンバサダー」のコミュニティ拡大を進めながら、「共創」をテーマに「アンバサダー」の皆さまと共にサービスの改善と開発に取り組んでまいります。

ご当地お土産製品や地域企業とのコラボレーションで地域を元気に！

「キットカット」は、特定地域のお土産品販売店でのみ販売されるお土産シリーズを展開しています。北は東北の「ずんだ風味」から南は沖縄・九州の「紅いも」まで、「キットカット」のご当地お土産シリーズは全国各地の名産にちなんだ17の味（2013年8月現在）を展開。普段スーパーマーケットやコンビニエンスストアでは買えない特別な「キットカット」としてレジャーや出張のお土産として好評をいただいています。

またお土産「キットカット」は地域の自慢の味を表現することにも力を入れており、地域の人気企業の協力を得てコラボレーション製品を共同開発しています。コラボ

レーションパートナーは多地域・多岐にわたっており、これまでも静岡・関東土産の田丸屋本店(わさび)、信州の八幡屋礒五郎(一味唐辛子)、京都の聖護院ハツ橋(和菓子)、同伊藤久右衛門(宇治抹茶)といった老舗企業の方々と一緒に地域を元気にするソーシャルプロダクツ開発を進めてきました。

心のブレイクで受験生を応援

「キットカット」は1973年の日本発売開始のころから変わらず、Have a break, have a Kit Kat.[®]というスローガンで、ブレイク、つまり休憩の時に食べていただくよう提案しています。いつしか「キットカット」のブレイクが思わぬところで利用されるよ

うになりました。2000年代初頭、九州地方の方言で、“きつと勝つとぅ!” = きつと勝つ! という語呂合わせも手伝って受験生や受験生を支える方々が「キットカット」を験担ぎに購入したり、贈ったりされていることが判りました。以来、「キットカット」を使って、受験生が抱える特有のプレッシャーやストレスが少しでも解放されればと考え、受験生を応援する活動を続けてまいりました。受験生に心のブレイクを—その思いから始めた受験生応援キャンペーンは2013年で10年を迎えました。現在では受験生の約2人に1人が受験シーズンに「キットカット」を贈ったりもらったりしています。そして約5人に1人が「キットカット」を試験会場に持参しています。

また、受験生応援の輪が広がるようにと、同じ思いを持つ企業・団体の方々とのコラボレーションも進めてきました。受験生応援キャンペーン初期から続けているのがホテルサンプリング。今では全国300超のホテルで宿泊する受験生に10万個以上の「キットカット」がホテルの方からの応援の言葉と一緒に手渡されています。

郵便局との共同開発商品「キットカット キットメール」は、切手を貼ってそのまま郵送できる世界初のチョコレートとして2009年に販売を開始。郵便局限定で販売され、遠くに離れて住む受験生に応援のメッセージを書いて送ることが出来るようになりました。



「キットカット キットメール」



「キットカット」ご当地お土産シリーズから

栄養

ネスレは、創業のときから今日まで、**栄養・健康・ウェルネス**に焦点を当てた事業戦略を展開してきました。科学的な根拠に基づいて、おいしくて**栄養的価値**があり、かつ**環境影響**ができるだけ少ない食品飲料を提供するという大目標を掲げ、**食品および食生活によるクオリティ・オブ・ライフ**（生活の質）の向上を目指しています。また、**栄養**に関して**明確で責任ある情報**を発信し、**消費者の皆さまの知識や理解**に基づく食生活を支援しています。

ネスレ ヘルシーキッズ プログラム

栄養のことを理解し、からだもしっかり動かすことで、生涯を通じて健康を保つことができる、ということ子どもたちにより良く理解してもらうためには教育が大きなツールであるとネスレは考えています。世界中の学齢期の子どもたちの、**栄養・健康・ウェルネス**に関する知識と実践する力

の向上を目指して、ネスレは2009年より子どもの教育プログラム、「ネスレ ヘルシーキッズ プログラム」をスタートさせました。日本でも、2011年に小学生低学年を対象とした「からだづくり」支援プログラムを開始し、2011年には約1,200校、約12万人の児童に、さらに2012年には小学生高学年にも対応できるプログラム内容の充実を図って、1,360校、約25万人の児童に、このプログラムの教材を提供しました。

プログラムは、からだと食べ物の関係を学ぶ「**栄養プログラム**」と、**栄養プログラム**で習ったことも復習できるオリジナルの「**ヘルシーキッズ鬼ごっこ**」を含むさまざまな鬼ごっこで、**からだを動かす楽しさ**を体験する「**運動プログラム**」から構成されています。また、ネスレ日本の工場でも、地域の小学生や社員の親子を対象に「ヘルシーキッズ プログラム」のイベントを開催しています。



ネスレ ヘルシーキッズ プログラム ロゴ



栄養について学ぶ子供たち



ニュートリション運動推進会議・子どもの健康づくり委員会委員
母子愛育会日本子ども家庭総合研究所・母子保健研究部
栄養担当部長
堤 ちはる

ステークホルダーの声

"バランス感覚"の育成を

食べることは毎日の営みであり、「一食くらいは抜いてもよいのでは」「今日は食べ過ぎててもかまわないだろう」となりがちですが、日々繰り返される行為であるからこそ、その重要性について考え「バランスよく適量を、おいしく楽しく食べる」ことが大切です。

食育は大人の食への関わり方が大きく影響しますので、周囲の大人が子どもと自分の「食」にもっと関心を持ち、率先して行動で示す必要があるでしょう。

また、健やかな体を育むためには、「食事」だけでなく「運動」「休養」なども含めた生活全体を整えていくバランス感覚を身に着けることも重要です。そのような意味から、この独自の特徴あるプログラムが広く活用されることを願っています。



ネスレウエルネスキッチンの様子

食育活動

ネスレでは楽しみながら、すぐに役立つ栄養情報や食生活の楽しいヒントをご提供する出張料理教室「ネスレウエルネスキッチン」を開催しています。食生活で皆さまの関心が高い、朝の栄養、バランス朝食をテーマに食育講座とネスレ製品で作るメニューをご紹介する料理教室「ネスレ ミロ朝勝つ!教室」と、コーヒーの豆知識やその楽しみ方をご提案するコーヒー教室の2コースを揃えており、2012年には、全国で約180教室を開催、参加者総数は6,700人を超えました。2009年の開講時から累計で約550教室、2万人以上の参加者の方々に展開しており、ネスレの栄養・健康

に関する活動を広めています。また、社員向け栄養・健康教育として2007年から世界のネスレで一斉に開始した「NQ ニュートリショントレーニング」では、2012年末時点で全世界で約22万6千人が受講を終え、日本でも全社員への研修を完了しています。継続的に、新しく入社した社員向けやマーケティングや開発関係者向けに研修を行っているほか、種々のツールで社員の栄養知識向上を図っています。

世界統一の栄養基盤

現在、ネスレは世界中で10,000種類以上の製品を扱っており、1日に販売されるネスレ製品数は全世界で約10億個にも上

ります。これらの幅広い種類の製品が、安全で健全な食品であることをチェックするため、ネスレはカテゴリーごとに、摂取過剰が課題となっている栄養素、例えばカロリー、飽和脂肪酸、糖類などの上限や不足しがちな栄養素の下限のルール化などを盛り込んだ独自の栄養プロファイリング基準を設けています。これらの基準を満たす製品が、「ネスレ栄養基盤」を持つとされており、日本でこの栄養基盤を持つ製品はコーヒーマシンを除く全製品の約99%に達しています。2011年に消費者庁からガイドラインが出されたトランス脂肪酸については、ネスレでは1999年に製品に含まれる量についての厳格な方針を定め、これを反映した栄養プロファイリング基準を導入して製品改良に取り組んできました。

栄養補助食品の分野で

ヘルスサイエンス事業では、患者さまやヘルスケアに関わる専門家のさまざまなニーズに応える医療用栄養食品を提供しています。代表的なブランドに、経口で食事がとれない方やベッドにいることの多い方向けの「アインカル」、小児から高齢の方まで状況に応じた栄養補給のできる「リソース」、集中的な栄養管理が必要な場合の「ペプタメン」などの健康補助食品があります。

現在、全国約8,000の医療機関や高齢者施設に対して栄養ケアに関する情報提供を行いながら、これらの製品を提供しています。また、「ネスレヘルスサイエンスハートフルケアプログラム」を通じて、製品の通信販売を行うとともに、患者さまやご家族からの栄養ケアに関するさまざまなお問い合わせにお答えしています。最近では、高齢者の低栄養状態のリスクの有無を簡易に評価する「ミニ・ニュートリショナル・アセスメント(MNA®)」や、嚥下困難を評価

する「イート・テン (EAT-10)」などの、海外で開発され実績を積み重ねた栄養状態に関わる評価 (アセスメント) ツールの国内での啓発普及に積極的に取り組んでいるほか、転倒予防や、リハビリテーションなど、高齢者の方々がよりアクティブに日常生活を送るための栄養補給の効果についても、大学などと共同で研究を進めています。

コミュニケーション

<パッケージで>

消費者の皆さまに十分な知識を得たうえで製品を選択していただけるよう、ネスレでは、現在ほぼすべての製品パッケージ裏面に、「ネスレ ニュートリショナルコンパス」という情報欄を設け、栄養成分表や製品の栄養や健康情報などを表示しています。

製品パッケージ表面には、エネルギー (カロリー) を気にされる消費者に、カロリーと上手に付き合い、健康的な生活をしていただくため、エネルギー量と栄養素等表示基準値 (1日の目安の2,100 キロカロリー) に対する割合をコンパクトに表示した「カロリーガイド表示」を記載しています。

<ウェブサイトで>

ネスレのウェブサイトでは、皆さまのウエルネスを応援する「ネスレ ココロとカラダのバランスマガジン」を発行しています。栄養に関する知識を簡単に楽しく学べる大人の食育ゲームをはじめ、ココロとカラダの健康に役立つ情報を提供しています。「ネスレ バランスレシピ」では、脂質・塩分などにネスレ独自の栄養基準を満たした約2,000件のレシピを紹介。野菜量、カルシウム、鉄分がたっぷりの健康・ウエルネスレシピが満載です。「ネスレ キッズチャレンジ」では、子ども向けの「キッズタウン」や、保護者向けのコンテンツも充実。

健康や食育に役立つ情報を提供し、正しい栄養知識を親子で楽しく学べる人気サイトになっています。動画サイト「想いやりレシピTV」では、ネスレの社員が、大切な誰かのために、「簡単にヘルシー、そして美味しい料理」の作り方をお届けしています。

<スマートフォン・タブレットで>

2009年6月から提供を開始したスマートフォン向けのレシピアプリ「ネスレ バランスレシピ」では、栄養の専門知識を持つ「食のプロ」が監修した約1,700件のレシピや、体重・摂取エネルギーの管理機能など、栄養・健康についての適切な情報をお届けしています。加えて、iPad向けに音声認識によるページスクロール機能や体重コントロールアプリも追加。2012年には紫外線が気になる方向けのアプリ「ネスレ UV予報」の提供を開始しました。このように、継続的に開発・改良を行った結果、スマートフォンおよびタブレット向けアプリを合わせて、2013年6月現在で累計200

万を超過ダウンロード数を記録しています。

<公開講座で>

コーヒーに多く含まれるポリフェノールに関する最新の知見を広くお伝えするため、学会との共催セミナーなどの講演会を毎年開催し、コーヒーポリフェノールと健康に関する啓発活動を積極的に展開しています。2013年5月には、第67回日本栄養・食糧学会 (名古屋) において、ネスレ・スポンサードセミナー「紫外線による皮膚表皮細胞障害とコーヒーポリフェノールの防御作用」が開催され、シミ発生のメカニズムや、コーヒーポリフェノールのシミ抑制効果についての最新の研究が紹介されました。

ネスレの研究開発ネットワーク

ネスレは、約5,000人を擁する私的機関としては世界最大の栄養研究のネットワークを有し、中心的存在であるスイスの「ネスレリサーチセンター」に加え、世界32



ネスレ ヘルスサイエンス
- ご高齢の方々の健やかな毎日をサポート



ネスレ バランスレシピ
PC : nestle.jp/recipe/
携帯 : m.nestle.jp/recipe

カ所に研究開発センターを持っています。2009年、東京大学構内に健康と栄養の基礎研究を目的とした「ネスレリサーチ東京」が、「ネスレリサーチセンター（スイス）」の日本の拠点として開設されました。「食と生命」を切り口とした共同研究を立ち上げ、「コーヒーと健康」「ヘルシー・エイジング（健康的な加齢）」「メタボリックシンドローム」や「機能性食品」など健康と栄養に関するさまざまなテーマに取り組んでいます。

2012年9月にはネスレリサーチ東京と東京大学寄附講座「食と生命」共同主催に

よる「食と生命のサイエンス・フォーラム～筋肉の衰えと加齢・栄養と運動による予防～」を開催しました。高齢化社会を迎えて、加齢による筋肉の衰えを意味するサルコペニアは転倒や骨折の原因になるなど日本および先進国において重要な関心事となっています。講演では運動と高齢者にあわせた適切な栄養との組み合わせがサルコペニアの予防に果たす役割について、これらの分野の第一人者である講師により最新の研究成果や見解をご紹介いただきました。



「食と生命のサイエンス・フォーラム」の様子



京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻助教
山田 実

ステークホルダーの声

40歳以降、知らず知らずのうちに筋肉は痩せていき、筋力が低下しやすくなります。

このような加齢による筋肉の衰えをサルコペニアといいます。

筋力が低下すると「階段の昇り降りがきつい」等、日常生活に様々な制限をきたし、介護が必要な状態を招くこととなります。ではどうすれば良いのか？

それはできるだけ元気なうちから予防に努めるということです。

サルコペニアを予防・改善するために必要なのは運動と栄養です。筋肉の原材料となるたんぱく質をしっかりと摂取して運動習慣を付けておくことが大切です。ネスレの栄養面の取り組みは超高齢化社会を迎える日本で今後ますます重要になってくると思います。

ネスレ栄養科学会議の設立

日本での栄養科学の進展および科学的な栄養関連・健康情報の普及を目的としてネスレ栄養科学会議を設立し、1993年以来、栄養科学の発展に寄与する活動を行っ

ています。研究者を支援するための研究助成や論文賞の贈呈に加え、健康・栄養に関するさまざまなテーマで講演会の開催、また国内外の研究者による書籍の出版が主な活動です。2012年は8件の研究助成、

若手研究者4名に論文賞を贈呈しました。また講演会「栄養と免疫システム」を開催、第一線の研究者にご執筆いただいた「栄養とエピジェネティクス」を出版しました。
<http://nncj.nestle.co.jp/ja>



水資源と環境の保全

おいしくて栄養的価値があり、かつ、環境への影響を最低限に抑えた食品飲料をお届けするために私たちは、業務効率と環境パフォーマンスの改善に努めています。自社の事業範囲と製品に限らず、バリューチェーン全体に及ぼす影響について、ライフ・サイクル・アプローチを適用して吟味・評価を行っています。ネスレにとっても社会にとっても、よりよい未来と「共通価値の創造」に向けて、今後も取り組んでいきます。

メタン発酵排水処理施設

島田工場（静岡県）では、2004年に、約3億円を投じて、世界30カ所以上のネスレのコーヒー工場の中で最初にメタン発酵排水処理システムを導入しました。この排水処理は嫌気性微生物（メタン菌）による有機物の分解処理で、蒸気などのエネルギーを必要としないため、工場でのエネルギー使用量が大幅に削減され、CO₂排出量は約12%削減されました。さらに2005年からは、このメタン発酵排水処理システムから発生するバイオガス（主にメタンガス）をボイラーの補助燃料として利用しており、これによる省エネ効果は原油換算で毎時約70リットルとなっています。

コージェネレーションシステム

2004年に姫路工場（兵庫県）、2006年に島田工場にコージェネレーションシステムを導入しました。コージェネレーションとは熱電併給とも呼ばれ、発電時に発生した排熱のエネルギーを有効利用することで総合エネルギー効率を高めるエネルギー供給システムです。姫路工場では、LNG（液化天然ガス）をタンクローリー輸送して工場内のLNGサテライト基地に備蓄する燃料供給方式を導入し、最大92%という

高い総合エネルギー効率（一般的には70-80%）を達成。これらテクノロジーの先進性・先導性が高く評価され、2005年には第9回新エネ大賞（新エネルギー財団）を受賞しました。この新規システムにより既存設備と比較して約19%の省エネおよび約30%のCO₂排出削減を達成しています。また島田工場では、コージェネレーションシステムのみならず、脱臭装置、エアヒーターなど他の燃焼施設に至るまで、従来の重油燃料から環境負荷の少ない都市ガスへの転換が実現されています。

コーヒーかすの熱エネルギー回収リサイクル

姫路工場と島田工場では、コーヒー抽出工程で排出されるコーヒーかすのほぼ

100%を燃料として再利用し、その燃焼エネルギーで発生した蒸気を工場の熱源として利用しています。この流動床ボイラーによるコーヒーかす熱エネルギー回収システムは日本で初めて1983年に島田工場に、1986年に姫路工場に導入されました。姫路工場では、燃料による年間エネルギー使用量の約20%がこのコーヒーかす（バイオマス）サーマルリサイクルで賄われており、2007年、このシステムは先導的なバイオマス活用の取り組みとして兵庫県の「ひょうごバイオマスecoモデル」第31号に登録されました。

ノンフロン二元冷凍装置

ネスレが世界のあらゆる業界に先駆けて



霞ヶ浦工場、ボトルコーヒー製造プラント

開発した「ノンフロン二元（二酸化炭素 / アンモニア）冷凍装置」が姫路工場のコーヒー凍結乾燥工程に導入されたのが 2005 年、そして 2011 年 4 月には島田工場にも導入されました。

二酸化炭素、アンモニアは共に自然冷媒で、システム内を循環し通常は大気に放出されないため、地球温暖化やオゾン層破壊への影響をほとんど無くすることができるのです。「ネスカフェ ゴールドブレンド」に代表されるフリーズドライコーヒープラントにおけるフロン冷媒の全廃を目的にした 15 年がかりの脱フロン対策をネスレは推進してきました。モントリオール議定書のフロン撤廃の条約期限を 5 年前倒しにした世界的なネスレグローバルイニシアチブを、日本ではさらに約 5 年前倒しで達成。島田工場での導入により、2011 年 3 月から 7 月末までは、2010 年同期比で、電力量は 26% 減、水使用量は 15% 減となっています。

霞ヶ浦工場ボトルコーヒー新製造プラント

2012 年 6 月に完成した霞ヶ浦工場（茨城県）のボトルコーヒー新製造プラントは、一般的に「UHT・ホットパック充填」より水の使用量が少なくて済む「無菌充填プロセス」を採用しています。これに加え、今回新プラントに導入した最新鋭の機械では、ネスレが従来採用してきた「無菌充填プロセス」よりさらに 1 日当たり約 240 トンの削減が可能です。この量は平均的な世帯が使用する水の量で換算すると約 330 世帯分に相当します。また、新プラントには、一般的な重油ボイラーではなく、より環境に配慮した液化天然ガスを使用するボイラーを採用しました。液化天然ガスは重油に比べ、大気汚染につながる窒素酸化物 (NOx) や硫黄酸化物 (SOx)、また地球温

暖化の原因となる二酸化炭素の排出を低減することができます。

新プラントに採用した最新鋭「無菌充填プロセス」によって、ペットボトルの減量が可能となります。キャップとラベルも含めファミリーサイズ(900ml) ペットボトルコーヒーでは国内最軽量*のパッケージを継続して使用しています。また、新ラインでは、新たに厚さ 30 μ m のラベルを採用し、ラベルの厚みも薄くなりました。今後もさらに使用する資源の削減を続けるとともに、工場から出る一般ゴミの減量にも配慮していきます。

*ファミリーサイズ (900ml) : キャップ・ラベル・ペットボトル合計重量 (2013 年 6 月現在、当社調べ)

ネスレの環境への取り組み

ネスレ日本の自社工場での生産量は 2002 年から 2012 年までに 66% 増加していますが、同期間に、エネルギー使用量を 13%、温室効果ガス排出量を 19%、総水使用量を 10%、そして総排水量を 23%、それぞれ削減しました。

【国際規格の認証取得】

日本国内の 3 工場すべてにおいて、2008 年 12 月までに、ISO14001 (環境マネジメントシステム) に加えて ISO22000 (食品安全マネジメントシステム) の国際規格認証を取得。また、2011 年には世界中の食品産業界で広く認められている食品安全認証システム [FSSC22000 (Food Safety System Certification 22000)] の認証を取得しました。

無理、無駄、ムラをなくす改善活動

ネスレでは、消費者の皆さまに焦点を合わせた継続的な業務効率改善活動である「ネスレ・コンティニュアス・エクセレンス」を 2008 年より全世界で推進しています。

この活動が目指すのは、3 つの「C」です。

- 消費者の皆さま (Consumer) に喜びをお届けする
- 競合他社に対する優位性 (Competitive Advantage) を高める
- 卓越したコンプライアンス (Compliance)

日本でも、国内 3 工場を中心に、本社部門においても、原材料の調達から皆さまのお手元に製品が届くまでのモノや価値の流れ全体の中で、皆さまにとって価値のない、無理、無駄、ムラをなくすことに積極的に取り組んでいます。これを日々継続して行うことによって、在庫や製造コストを適正にし、製造のリードタイムを縮小しています。また苦情の減少にもつながっています。

工場のリサイクル活動

島田工場では、2010 年より、コーヒー製品の製造過程で発生するコーヒーかすの一部を培養土にリサイクルする活動を始めました。コーヒーかすから醸成された培養土は、地元島田市にある「ばらの丘公園」へ寄贈されています。

また、「キットカット」を製造する霞ヶ浦工場では、循環型社会を目指し、食物残さの全量飼料化に取り組んでいます。ウエハースなどの食物残さは、近郊のダチョウ農場や養豚場、牛牧場などへ運ばれ、動物たちの飼料として利用されています。

プロジェクト WET

プロジェクト WET (Water Education for Teachers) は教育ツールを用いて世界中の児童の水問題に対する意識の向上を図る国際的な取り組みです。ネスレウォーターズ (本部フランス) は 1992 年からメインスポンサーとしてその活動をグローバルに

支援してきました。

日本ではこのプロジェクトは公益財団法人河川財団が推進しており、ネスレ日本は、2012年から工場を中心に活動を始めています。WETのツールを使って子どもたちを教育することができる『エデュケーター』という資格を持つスタッフが既に10名おり、工場近隣の小学生を対象に、水や水資源に対する知識・理解・責任感を深めてもらうよう、取り組んでいます。



オフィスでの取り組み

顧客からの受注を受けるネスレ日本内のカスタマーサービスセンターでは、2011年夏にFAX複合機と文書管理ソフトを導入することで、月間の紙の使用量99.5%減、という受注のペーパーレス化を実現しました。全社的にも、書類の電子化、書類のフローの見直しなど、ペーパーレス活動に取り組み、その結果、2012年の紙の使用量は2010年比26.6%減となりました。

環境にやさしい物流の実現へ

2009年に、トラック輸送に比べてCO₂排出量が約7分の1といわれる鉄道輸送を利用することで、「ネスカフェ」缶コーヒーは国土交通省ならびに社団法人鉄道貨物協会が制定する「エコルールマーク商品」の認定を取得しました。また、国内3工場で製造される製品の北海道への配送を、フェリー輸送に100%移行したことで、2010年には、「エコシップ・モーダルシフト事業優良事業者」として、国土交通省海事局長より表彰を受けました。また、さらなる環境にやさしい物流を目指して、トラッ



姫路工場でのWETのツールを使用した「みんなのためのけ教室」

ク便の積載効率を改善することによる総トラック台数の削減、大型トレーラーの導入、ループ便(トラックの有効利用)による輸送効率の向上にも取り組んでいます。お得意さまへの物流においても、工場からの直送に追加して、製造協力企業からの直送も開始し、輸送距離の削減、在庫削減によるより新鮮な製品の納品を可能にする取り組みも行っています。

輸送によるCO₂削減活動だけでなく、物流のパートナー企業である配送センター各位においてもISO14001(環境マネジメントシステム)の取得を推奨しています。既に3社で認証を取得されているほか、他の主要配送センターでも認証取得に向けて

の準備を開始されています。今後もさらに環境にやさしい物流を推進して行きます。

社用車

ネスレは世界で「カーフリースト ロードマップ」を策定し温室効果ガスの一つであるCO₂の排出量の削減とガソリンの使用量の抑制に取り組んでいます。ネスレ日本においても、環境性能に優れた車両の導入を促進しています。役員車を含む役職者用車約100台にハイブリッド車を採用したのに続き、営業活動用車約450台についても、世界一の燃費性能を持つハイブリッド車を採用し、いずれも順次切り替えを進めています。

ネスレの人材

ネスレは「社員こそが最も重要な会社の資産」と考えています。

ネスレの価値観と諸原則を共有することのできる人材の雇用が大前提です。そして、安全かつ公正な職場で、社員一人ひとりが必要な機会と支援を手にして、自身の能力を十分に発揮できるようにする、ということがネスレの原則の中でも最も重要なことです。さらに社員の声を聞き尊重するとともに、多様性と平等を尊ぶ職場であることも含まれます。教育訓練と専門性の向上への長期的な投資は、社員によりよい就業の機会を生み、会社にとっては事業運営に必要なスキルを持った人材の確保をもたらします。



新入社員研修

ダイナミックなチームづくりへ

2011年から、さまざまな個性が切磋琢磨するダイナミックなチーム作りを目指し、選考時期・方法を学生が選べ、何度でも挑戦できる新しい通年採用選考プロセス「ネスレパスコース」を導入しました。全8項

目のエントリーコースから2コースを選択しエントリーするか、または通年で募集している「通年インターンシップ」に参加することにより「ネスレパス」を付与された学生は、次世代リーダーを育成する社員参加型研修

「ネスレチャレンジプログラム」に希望の時期に参加でき、その後、面談を経て採用が決定されます。

また、2012年3月からはアソシエイト(内定者)の主体的なキャリア形成を支援する「ネスレアソシエイト制度」を導入しました。全世界の社員向けに導入しているキャリア形成プラン共有制度(PDG = Progress & Development Guide)を基盤としたこの新制度により、アソシエイトが“ネスレ流”の育成に触れ、学生生活をより充実したものにできるよう支援します。

また、ネスレ日本の新しいビジネスモデル創出に社員が参画することを目指し、2011年より「ネスレ日本イノベーションアワード」を開始しました。アイデアを出し、周りを巻き込んで徹底的にやり抜くという社員の起業家精神を応援することによって企業競争力を高めていくのが狙いです。優れた成果には、報奨金やネスレイス本社訪問旅行などさまざまな形での表彰が行われます。



キャリアの段階に応じた研修プログラム

ダイバーシティ@ネスレ日本

さまざまな違いを持つ社員が集まった組織のほうが新しい発想やイノベーションが生まれやすくなる - ネスレ日本では、やる気のある社員には性別、国籍、年齢を問わずに成長の機会が与えられ、社員が“ネスレで働くことを楽しいと感じる”会社であるよう、ダイバーシティの推進に取り組んでいます。

“自らのキャリアを自らが描く”ことを目的として、2010年より経験豊かな役員・管理職らが月2回の電話・面談を中心に継続的な育成支援を行うキャリア形成支援プログラム「メンタリングプログラム」を開始しています。プログラムへの参加は自己推薦型ですが、2013年度のプログラムへの参加者は過半数が女性となり、女性社員のキャリア形成に大きく貢献しています。

<ワークライフハーモニーを支援>

女性のキャリア継続や男性の育児参加を促すため、2012年4月に、霞ヶ浦工場に事業所内保育園「ねすれっこ・はうす」を開設。また、男女共に育児休業を最大10日間有

給化するとともに、産前休暇、育児休業、介護休業対象者に1回の申請につき最長6カ月の在宅勤務を認める制度も2010年より設けており、これまで60名以上の男性社員が育児休業制度を利用しています。また、2011年からは午後7時までは照明もすべて消灯、オフィスを退出するノーマン残業を全社で導入しています。



次世代認定マーク (通称:くるみん)

2011年6月、「次世代育成支援対策推進法」に基づき策定した行動計画やその取り組みが認められ、「次世代認定マーク(通称『くるみん』)」(厚生労働省)を取得しました。

メンタルヘルス研修

社員の心の健康(メンタルヘルス)を支援するため、全社員に対する「メンタルヘルス・セルフケア研修」を2010年より実施しています。この研修によって、社員がメンタルヘルスについての理解を深め、自らそれを維持・管理できるようになることを目的としています。

安全衛生管理・CAREプログラム

労働安全衛生マネジメントシステム(OHSAS 18001)を日本のネスレの3工場で取得済です。

連続無事故日数(休業災害が発生しない連続日数)をイントラネットに掲示し、各職場での安全に対する意識向上を呼びかけています。また人事、公正な業務、安全衛生、環境の4分野でのネスレ独自の第三者監査プログラムCARE(ケア)が2007年からネスレ日本グループの全事業所で実施されています。

コンプライアンス意識の啓蒙

ネスレにおいてコンプライアンスとは「ネスレの経営に関する諸原則」を実践することであり、法令の順守は当然そこに含まれています。社員一人ひとりがこのことをより深く理解し、職場やステークホルダーの皆さまとの関わりの中で自信をもって実践していくことを支援するため、コンプライアンス研修や意識啓蒙活動を実施しています。新入社員、3年目社員、新任係長・課長、部長等の研修プログラムでは、参加者は積極的に討議に参加し、自らも組織としても、公正で誠実な行動をとることについて考え、意識を深めています。



霞ヶ浦工場内の保育園、「ねすれっこ・はうす」を訪れたブルケCEO

社会貢献・ボランティア

地域美化活動

2009年からは富士山の自然環境保護に取り組んでいる環境NPO富士山クラブの活動に賛同し、清掃活動に年に2回以上参加協力しています。また、本社のある神戸市の六甲山でも清掃ハイキングを春・秋に行っているほか、本社や工場など各事業所の周辺の清掃活動も定期的に行っています。

環境保全活動

六甲山系グリーンベルト整備事業（国土交通省近畿地方整備局）の活動趣旨に賛同し、2009年から「森の世話人活動」に参加し、災害に強い森づくり、自然豊かな森づくりを目指して活動しています。六甲山麓の担当エリア（「ウエルネスの森」と命名）では、下草刈り、間伐や植樹などの活動を通じて森の整備を行っています。

収集活動

ペットボトルのキャップを集めリサイクルし、世界で貧困にあえぐ子どもたちにワクチンを提供するボランティア活動を推進している特定非営利活動法人「エコキャップ推進ネットワーク」に協力しています。他にも（財）ジョイセフ 国際協力推進グループを通じて、ベルマーク、使用済み切手などの収集ボランティア活動にも協力しています。

献血活動

神戸本社や工場事業所などで採血バスによる献血活動を継続的に行っています。本社では30年以上にわたる継続活動が評価され、2009年には日本赤十字社から功労賞を受賞しました。

フードバンク

「セカンド・ハーベスト・ジャパン」と「フードバンク関西」が弱者支援として定期的実施している食料の無償配布活動に賛同し、飲料やチョコレートなどの商品を、温度管理や再流通の防止策をお願いした上で提供しています。また「セカンド・ハーベスト・ジャパン」が毎週土曜日に上野公園で行っている炊き出しなどにも社員が参加協力しています。

ネスレゆずりば

「ネスレゆずりば」は、誰でも簡単に暮らしの品を無料でゆずったり、もらったりできるソーシャル・サービスです。2011年ネスレのウェブサイト「ネスレ アミューズ」内にオープンしました。Facebookを通じた譲り渡しの数はこれまでに2,000を超えて

います。（2013年6月末時点）

協賛イベントでの活動

ネスレ日本グループは、1995年の阪神・淡路大震災を機に始まった光の祭典「神戸ルミナリエ」と「神戸ルミナリエハートフルデー」に協賛しています。この会場では、毎年多くの社員ボランティアが参加し、来場者の方々のおもてなしをしています。



神戸ルミナリエ ハートフルデーでの社員ボランティア

ステークホルダーの声



神戸市長
矢田 立郎

阪神・淡路大震災からの復興を祈念して始まった「神戸ルミナリエ」も、昨年で第18回を迎え、12日間で延べ340万人の方がお越しになりました。開幕前には、例年にも増して、ネスレ日本さんの多大なるご支援をいただき、高齢者や障がい者の方々がゆっくりとルミナリエを楽しんでいただくためのハートフルデーが開催できましたことに厚く御礼申し上げます。多くの社員やご家族の皆様がボランティアとしてお手伝いいただき、来場者への本当にあたたかなおもてなしをしてくださったことで、訪れた方々の満面の笑顔が会場にあふれていたことを思い出します。心より感謝申し上げます。